

社会医療法人 黎明会

宇城総合病院

Social medical corporation REIMEIKAI

UKI General Hospital

Annual Report 2023

年報

令和5年度(2023年度)

令和5年4月1日～令和6年3月31日



令和5年度(2023年度)

理念、基本方針 患者の権利・責務

【理 念】

私たちは医療をとおして地域に貢献します

【基本方針】

1. 良質で安全な医療を実践します
2. 快適な受療環境を提供します
3. 魅力ある職場をつくります

【患者の権利】

1. 個人として常にその人格が尊重される権利

個人の人格、価値観などが尊重され、医療従事者との相互信頼、相互協力関係のもとで医療行為を受けることができる権利があります。この権利に基づき、主治医・受持看護師等と相互信頼、相互協力関係が保てない場合は変更を申し出る権利があります。

4. 自己決定の権利

十分な説明と情報提供を受けた上で、自己の自由な意思に基づいて、治療方法を選択し、治療を受け、拒否する権利があります。自己決定の際に、主治医以外の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞く権利があります。

2. 良質で安全な医療を受ける権利

身分、人権、信条、性別、障害の有無などにかかわらず、適切で安全・良質な医療を公平公正に必要な限り継続して受ける権利があります。

5. 個人のプライバシーが守られる権利

個人のいかなるプライバシーも守られる権利と、診療の過程で得られた個人情報 は 自己の承諾なくして、自己の診療に直接的にかかわる医療従事者以外に漏れたり開示されたりしない権利があります。

3. 十分な説明を受ける権利

自分が受ける治療や検査の効果や危険性、他の治療法の有無などについて、理解しやすい言葉や書面などで、納得できるまで十分な説明を受ける権利があります。こうした権利に基づき、自らの診療記録の開示を求める権利と、家族にも診療記録の開示を求める権利があります。

6. 苦情を申し立てる権利

医療行為等により被害を受けたと考える場合や診療経過中に当初の説明とくい違いが生じた場合、また上記の各権利を侵害された場合は、苦情を申し立てることができ、これを以って不利益を受けない権利があります。

【患者の責務】

1. 本院の規則を遵守し、迷惑行為は慎んでください。
2. ご自身の健康状態について、できる限り正確にお話してください。
3. 適切な治療方針を決めるために、ご自身の意思や意見を伝えてください。
4. 治療方針をご理解のうえ、ご協力ください。
5. ご加入の保険を正確に伝え、受けた医療に対する医療費をお支払いください。

病院長挨拶

ごあいさつ

社会医療法人 黎明会
宇城総合病院

病院長 箕田 誠司



ここに令和5年度の年報が完成しましたのでお届けいたします。診療実績の詳細はデータをご覧いただければと思いますが、一言で申し上げますと、コロナのダメージから力強く回復しつつあります。ただ、依然としてコロナ前の実績には達していない状況があるのも事実ですが、この回復は職員の奮闘努力の結果であり、地域住民および医療・介護関係者のご支援があってこそのもです。この場を借りて関係各位に深く感謝申し上げます。

昨年度の大きな出来事は、4月の院長交代、5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行、そして10月には9月までコロナ専用病棟として運用していた西4病棟が原状復帰したことが挙げられます。そして大方の予想より早く年末年始には病床利用率も90%前後に回復しました。回復期リハビリ病棟と地域包括ケア病棟は引き続き100%に近い稼働率を維持したこともあって、全病棟全体の稼働率は95%前後となりました。

しかし、「好事魔多し」です。ほぼ同時期に西4病棟で看護師の離職が相次ぎました。4年にわたるコロナ対応で潜在化していた勤務環境問題が、急速な病床利用率回復をきっかけに噴き出した側面があり、ポストコロナが本格化するに当たって、西4病棟を始めとする病院全体の勤務環境改善の必要性を痛感しました。

手術件数について、整形外科はコロナ前の388

件には達していないものの、昨年度の250件から今年度は289件と着実に増加しています。外科は一般・消化器外科手術が再開され、ヘルニアや胆石手術がメインの週1ペースですが、令和4年度の2件から54件に増加しました。これに伴い、外来および入院患者数も増加しています。

当院は公益性の高い地域医療を担う社会医療法人として救急医療で認可され、宇城地域唯一の地域医療支援病院、地域医療拠点病院、感染症指定医療機関、災害拠点病院などの多くの公的役割を担ってきました。令和5年度もこれらを維持するための必要な要件は十分にクリアできています。因みに紹介率は80.8%、逆紹介率は92.2%、CTおよびMRIの他施設との共同利用率は96.2%、地域医療従事者向け研修会の開催は12回でした。救急においては、救急車搬送数が1,324件（入院673名）、ウォークインが2,203名（入院258名）、合計入院数は931名でした。さらに2024年正月早々の能登半島地震では、災害拠点病院として1月中にDMATを派遣しました。

当院を取り巻く状況は、働き方改革や診療報酬改定の影響、人手不足、そしてウクライナ戦争以来の物価高騰による費用増大など、楽観視できるものではありません。今後も引き続き、救急医療、災害医療、感染症指定医療機関などの公的責務を果たしながら、介護や在宅医療の後方支援になくてはならない病院として、職員と共に地域医療に貢献してまいります。

航空写真



北東側から俯瞰した宇城総合病院

目次

理念、基本方針、患者の権利・責務	1	航空写真	4
病院長挨拶	3	目次	5

1. 病院概要 6～9

I. 沿革	6	IV. 学会等認定施設	8	VI. 職員数	8
II. 施設基準届出一覧	7	V. 診療科目	8	VII. 組織図	9
III. 指定医療機関	8				

2. 中央診療部門 10～40

I. 循環器内科	10	XV. 連携支援課	19-22
II. 脳神経内科	10-11	XVI. 診療情報管理室	23-24
III. 外科	11	XVII. 理学療法科	24-25
IV. 整形外科	12	XVIII. 作業療法科	26
V. リウマチ科	12	XIX. 言語聴覚療法科	27-29
VI. 泌尿器科	13	XX. 宇城地域リハビリテーション広域支援センター	29-32
VII. リハビリテーション科	13-14	XXI. 回復期リハビリテーション病棟科	32-33
VIII. 放射線科	14	XXII. 腎・透析センター	33
IX. 麻酔科	14	XXIII. 糖尿病センター、内分泌・代謝内科	34
X. 薬剤科	14	XXIV. 救命救急センター	35-36
XI. 中央放射線科	15	XXV. 手術センター	37-38
XII. 臨床検査科	16	XXVI. 医療安全対策室	38-39
XIII. 臨床工学科	17-18	XXVII. 感染対策室	40
XIV. 栄養管理科	18-19		

3. 主部門 41～46

I. 東3病棟	41	IV. 西4病棟	43	VI. 健診センター	44
II. 西3病棟	41-42	V. 外来	43-44	VII. 看護部教育・研修の実施	45-46
III. 東4病棟	42				

4. 診療データ 47～60

5. この一年 61～64

6. 各種発表一覧 65

I. 症例検討会発表一覧	65	II. 講演・学会発表一覧	65
--------------	----	---------------	----

7. 研修受け入れ 66

8. 院内外広報誌・ホームページ 67～68

病院概要

I. 沿革

1984 (S59)	7.1	宇賀岳病院開院 本田溥院長就任 一般病床48床・合計48床許可 職員数80人
	9.7	一般病床64床・合計64床許可
	11.10	救急医療機関として指定
1985 (S60)	11.19	一般病床80床・合計80床許可
	10.5	医療法人社団黎明会として設立 坂崎善暢理事長就任
1987 (S62)	7.1	平原謙一院長就任 東館増築
	7.6	一般病床180床・合計180床許可
	11.21	保育室開設
1988 (S63)	4.1	狩場正敏理事長就任
	11.17	人工腎臓透析室開設許可
1994 (H6)	9.14	一般病床197床・合計197床許可
1995 (H7)	7.1	本田溥理事長就任 狩場岳夫院長就任
	4.17	一般病床147床・療養病床50床 合計197床許可 東館3階増築
1997 (H9)	4.1	村上幹彦院長就任
	12.4	東別館増築
1998 (H10)	4.14	東外来病棟増築
	8.14	一般病床97床・療養病床100床 合計197床許可
1999 (H11)	3.3	災害拠点病院指定
2000 (H12)	4.1	療養病床のうち8床を介護保険に変更
2002 (H14)	3.19	東別館2階増築
	3.29	第二種感染症指定医療機関指定
	4.5	一般病床97床・療養病床100床・(感染4床)・合計197床許可
	8.30	一般病床147床・療養病床50床・(感染4床)・合計197床許可
2003 (H15)	4.1	介護保険8床(療養病床)を医療保険に変更
2004 (H16)	4.20	言語聴覚療法室完成
	6.17	一般病床152床・療養病床43床・感染症病床4床・合計199床許可
2005 (H17)	3.28	特定医療法人承認
	9.21	総合リハビリテーション施設増築 (総合リハビリテーションA施設)
2006 (H18)	4.1	糖尿病センター開設
	4.24	日本医療機能評価機構病院機能評価(Ver.4)認定
	2.1	江上寛院長就任
2007 (H19)	3.31	自家発電装置の設置
	11.1	一般病床195床・感染症病床4床・合計199床許可
2008 (H20)	5.29	清水寛理事長就任
	7.20	DMATチーム発足



昭和59年開院



昭和62年東館増築



平成10年東外来棟増築



平成17年総合リハビリテーション施設増築



2011 (H23)	4.24 5.1	日本医療機能評価機構病院機能評価(Ver.6)認定 社会医療法人認定
2012 (H24)	7.2 9.29	宇城総合病院新築工事竣工式 宇城総合病院へ移転・開院 一般病床175床・感染症病床4床・合計179床許可
2013 (H25)	4.1	黎明会がともち未来病院の事業譲渡を受ける
2014 (H26)	4.1 5.1	一般病床200床・感染症病床4床・合計204床許可 地域包括ケア病棟(50床)開設
2015 (H27)	4.9 7.30	災害備蓄倉庫完成 地域医療支援病院承認
2016 (H28)	4.24	日本医療機能評価機構病院機能評価(3rdG:Ver.1.1)認定
2018 (H30)	10.5	熊本県在宅医療サポートセンター指定
2019 (H31)	3.27	熊本県地域医療拠点病院指定
2021 (R3)	7.1	江上寛理事長就任
2023 (R5)	4.1 9.1	箕田誠司病院長就任 黎明会が宇城市民病院の事業譲渡を受ける(外来機能) 紹介受診重点医療機関指定



平成24年宇城総合病院新築・移転

II . 施設基準届出一覧

(R5年3月31日現在)

届出区分	算定開始・変更年月日
一般病棟入院基本料(急性期一般入院料5)	2022年8月1日
救急医療管理加算	2020年4月1日
診療録管理体制加算1	2022年8月1日
医師事務作業補助体制加算1(40対1補助体制加算)	2022年8月1日
急性期看護補助体制加算(50対1)	2018年8月1日
療養環境加算	2014年5月1日
重症者等療養環境特別加算	2020年2月1日
医療安全対策加算1	2012年9月29日
感染対策向上加算2・連携強化加算・サーベイランス強化加算	2022年4月1日
後発医薬品使用体制加算2	2024年1月1日
病棟薬剤業務実施加算1	2018年6月1日
データ提出加算2	2014年8月1日
入退院支援加算1・地域連携診療計画加算	2022年9月1日
回復期リハビリテーション病棟入院料1	2022年8月1日
看護職員処遇改善評価料37	2023年10月1日
地域包括ケア病棟入院料2・看護補助者配置加算(25対1)	2023年9月1日
がん性疼痛緩和指導管理料	2023年6月1日
二次性骨折予防継続管理料1	2022年4月1日
二次性骨折予防継続管理料2	2022年4月1日
二次性骨折予防継続管理料3	2022年4月1日
夜間休日救急搬送医学管理料の注3に規定する救急搬送看護体制加算1	2020年6月1日
開放型病院共同指導料	2012年9月29日
がん治療連携指導料	2013年7月1日
薬剤管理指導料	2012年9月29日
検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	2017年6月1日

届出区分	算定開始・変更年月日
医療機器安全管理料1	2012年9月29日
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	2023年3月1日
検体検査管理加算(Ⅰ)	2012年9月29日
画像診断管理加算2	2013年10月1日
CT撮影及びMRI撮影	2012年10月1日
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	2019年8月1日
無菌製剤処理料	2012年9月29日
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)・初期加算	2022年1月1日
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)・初期加算	2012年9月29日
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)・初期加算	2012年9月29日
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)・初期加算	2012年9月29日
人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	2018年4月1日
導入期加算1	2018年4月1日
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	2016年9月1日
緊急整備固定加算及び緊急挿入加算	2022年6月1日
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	2017年9月1日
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	2014年9月1日
医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6(歯科点数表第2章第9部手術の通則4を含む)に掲げる手術	2012年9月29日
医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	2012年4月1日
輸血管理料Ⅱ	2012年9月29日
入院時食事療養(Ⅰ)	2012年9月29日
酸素の価格	2023年4月1日

III. 指定医療機関

(2024年3月31日現在)

- 保険医療機関
- 救急医療機関
- 指定自立支援医療機関(更生医療・精神通院医療)
- 結核指定医療機関
- 生活保護法指定医療機関
- 労災保険指定病院
- 被爆者一般疾病医療機関
- 地域医療支援病院
- 災害拠点病院
- 第二種感染症指定医療機関
- 厚生労働省臨床研修病院
- 熊本大学病院群卒後臨床研修協力型臨床研修病院
- 熊本県がん検診従事者(機関)認定協議会胃がん大腸がん精密検査機関
- 宇城地域リハビリテーション広域支援センター
- 難病医療費助成制度における指定医療機関
- 指定小児慢性特定疾病医療機関
- DPC対象病院
- 熊本県在宅医療サポートセンター
- 熊本県地域医療拠点病院
- 紹介受診重点医療機関
- 熊本県脳卒中回復期医療機関
- 熊本県心筋梗塞等の心血管疾患回復期医療機関

IV. 学会等認定施設

(2024年3月31日現在)

- 日本整形外科学会専門医制度研修施設
- 日本透析医学会教育関連施設
- 日本リハビリテーション医学会研修施設
- 日本医学放射線学会画像診断管理認定施設
- 日本糖尿病学会認定教育施設

V. 診療科目

(2024年3月31日現在)

- 内科
 - 循環器内科
 - 糖尿病内科
 - 内分泌・代謝内科
 - 人工透析内科
 - 腎臓内科
 - 脳神経内科
 - 外科
 - 呼吸器外科
 - 心臓血管外科
 - 消化器外科
 - 整形外科
 - リウマチ科
 - 泌尿器科
 - リハビリテーション科
 - 放射線科
 - 麻酔科(牛島一男)
- 計17科目

VI. 職員数

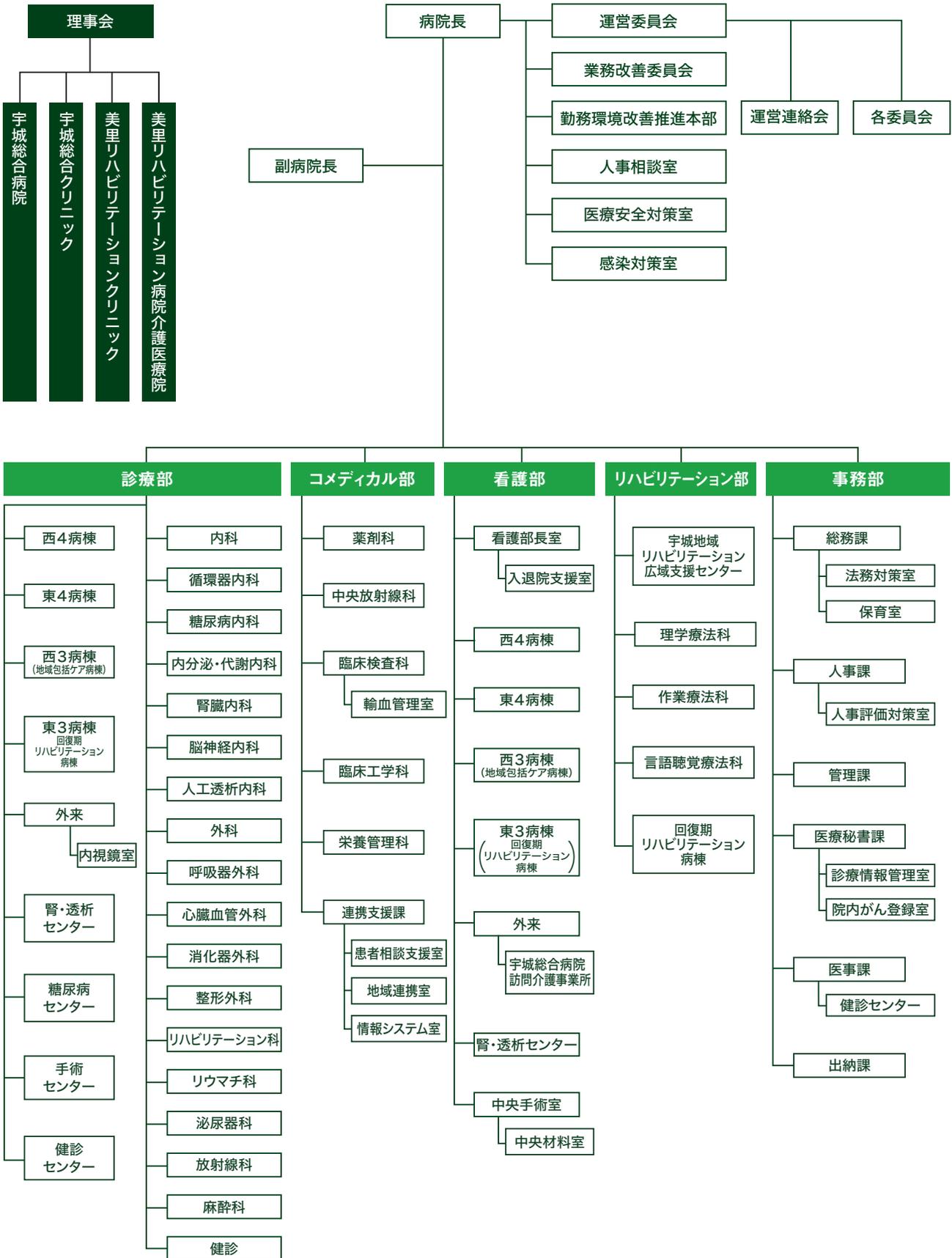
区分	人数 / 2023.3.31 現在	人数 / 2024.3.31 現在
医師	33	37
看護師	143	139
准看護師	9	9
介護福祉士	19	17
看護助手	12	13
理学療法士	30	31
作業療法士	23	23
言語聴覚士	8	8
歯科衛生士	1	1
リハビリ助手	2	2

区分	人数 / 2023.3.31 現在	人数 / 2024.3.31 現在
薬剤師	8	8
薬剤科助手	2	2
診療放射線技師	7	7
臨床検査技師	8	9
臨床工学技士	6	6
管理栄養士	7	5
社会福祉士	5	7
事務職他	68	70
合計	391	394

※上記人数には臨時雇用者等を含む。※業務委託者は含まない。

Ⅶ. 組織図

(2024年3月31日現在)



I . 循環器内科

循環器内科部長：本村 一美

循環器内科は常勤医が1名、熊本大学病院循環器内科から非常勤医師の応援を加えて、月曜から金曜の午前中は毎日循環器内科医が定期的に外来診療を行うことができている。

呼吸困難、胸痛・動悸の自覚、失神発作、不整脈の指摘、難治性の高血圧症などを契機に受診・ご紹介頂いており、心臓超音波検査による心機能の評価、負荷心電図検査による心筋虚血の評価、Holter心電図による不整脈の評価、内分泌学的検査による二次性高血圧の除外などを行っている。これらの比較的簡便な検査の結果を踏まえて、冠動脈CTや心筋シンチ、心臓カテーテル検査といった更なる精

査の必要性を判断し、熊本大学病院や済生会熊本病院などの高次医療機関にコンサルテーションを行っている。このような高次医療機関とは極めて良好な連携がとれている。当院での循環器としての入院加療は、高次医療機関での急性期の治療を終えた後に紹介を受け、亜急性期～慢性期のリハビリを含めた加療が中心となっている。

外来週間スケジュールは下記の通りだが、心疾患の関与が疑われる症例については外来診療時間外においてもコンサルテーションに応じて適宜診療を行っている。

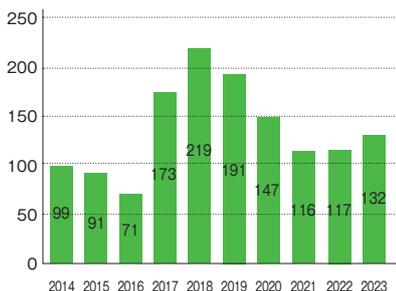
(i) 外来週間スケジュール

(2024年3月31日現在)

	月	火	水	木	金
午前	熊本大学(非)	本村 一美	本村 一美	小野 敬道	本村 一美
午後	—	—	—	—	—

(ii) 検査数

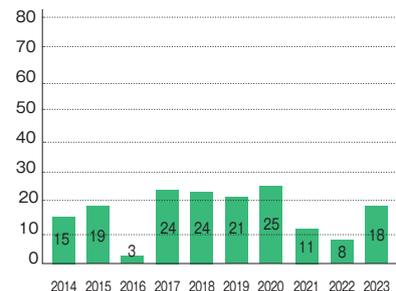
ホルター心電図



心エコー



負荷心電図



II . 脳神経内科

脳神経内科部長：平原 智雄

脳神経内科は平成29年4月より常勤医1名体制となり、7年が経過しました。

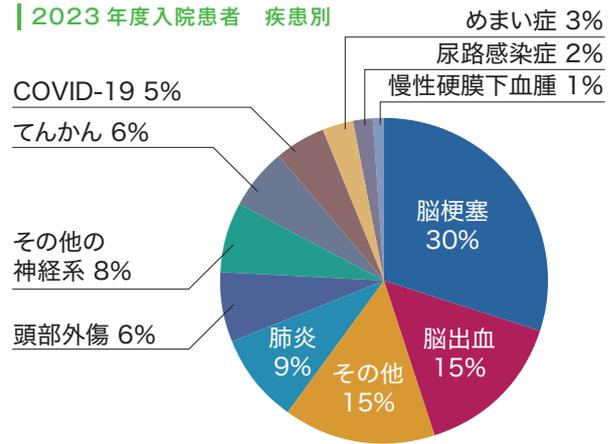
外来は週3回、月曜・木曜は常勤医師、水曜は熊本大学病院脳神経内科からの派遣医師が担当しております。頭痛、てんかん、パーキンソン病など専門

的なfollowが必要な疾患を中心に診療し、脳血管障害のリスク管理については、可能な限り近隣の開業医の先生をお願いしております。

入院は2023年度206名を担当させていただきました。脳血管障害が中心で、熊本市・八代市の急性期

病院から、回復期リハビリテーション目的で多くの症例をご紹介いただきました。また血管内治療、t-PAなどの高度な治療を要さない急性期脳梗塞症例については、当院にて急性期治療を行い、リハビリにつなげています。その他にも肺炎、尿路感染、食思低下など一般内科疾患の入院も担当しています。

今後も急性期病院、地域の先生方のご依頼に速やかに対応できるよう引き続き努力していきます。



Ⅲ. 外科

消化器外科部長：小森 宏之

消化器疾患を中心に乳腺・呼吸器疾患などに対し外科的治療を中心に行っております。2023年度の実績は以下の表をご参照下さい。

消化器外科疾患におきましては開腹手術のみならず、より低侵襲な腹腔鏡手術も積極的に行えるようになりました。地域完結型の治療を行うことを目指しますが、決して無理のないよう、疾患の状態、患者様の状態、ご家族・ご本人の希望を考慮し都市部の高次

病院と連携しながら安全な医療を提供いたします。

手術が必要となるような緊急疾患に関しては、麻酔科医師が一人のため現時点では日中のみの対応となります。日本外科学会外科専門医制度関連施設、日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設、がん治療認定医機構認定研修施設の施設認定を受けています。

外来患者数	2022年度	新患/1,131名	再診/1,729名
	2023年度	新患/1,088名	再診/2,039名

入院患者数	2022年度	235名
	2023年度	431名

手術件数	2022年度	2例
	2023年度	54例

検査件数	上部内視鏡	下部内視鏡	超音波
2022年度	184例	98例	107例
2023年度	300例	171例	132例

2023年度手術例の内訳 (重複あり)	鼠径大腿腹壁ヘルニア	25例	腹腔鏡手術	40例
	胆のう摘出術	16例	開腹手術	5例
	虫垂炎・他	7例	予定手術	39例
	悪性腫瘍手術	5例	緊急手術	15例

外来担当表		月	火	水	木	金
9:00~17:00	外来	箕田	小森	松田	箕田	小森
	救急担当	小森(AM)	松田(AM)		毛井(AM)	箕田(AM)

IV. 整形外科

整形外科部長：大多和 聡

整形外科は赤城、清原、高田、佐々木、大多和の5名の常勤医と、熊本大学の佐藤 広生先生、有馬崇博先生、谷村 峻太郎先生が非常勤医師として、計8名体制で診療を行っています。入院患者は回復期病棟の整形外科関連患者も含め、75-120名の患者をフォローしています。1年間の入院患者数の平均は、全体の入院患者数の54%でした。他に、骨粗鬆

症リエゾンチームの活動も行っていきます。

5月8日より新型コロナウイルス感染症が5類感染症の扱いになり、徐々に患者数も増えてきています。引き続き、感染防御に留意して、診療に従事してまいります。高齢者の外傷を中心に地域完結型の診療を目指し宇城地域の医療に貢献して行きたいと思っております。

(i) 診療実績

外来患者数	2021年度	新患 / 1,251名	再診 / 7,434名	入院患者数	2021年度	628名	
	2022年度	新患 / 1,419名	再診 / 9,409名		2022年度	692名	
	2023年度	新患 / 1,301名	再診 / 9,684名		2023年度	762名	
手術件数	2021年度	228例	手術例の内訳 (重複あり)	局所麻酔手術 /	29例	関節鏡手術 /	11例
	2022年度	250例		骨折 /	209例	脊椎 /	3例
	2023年度	289例		人工関節・人工骨頭 /	45例	その他 /	55例

(ii) 外来週間スケジュール

(2024年3月末日現在)

	月	火	水	木	金
午前	清原 悠太	佐藤 広生	大多和 聡 谷村 峻太郎	高田 柁 佐々木 一駿	赤城 哲哉 有馬 嵩博
午後	清原 悠太	佐藤 広生	大多和 聡	高田 柁 佐々木 一駿	赤城 哲哉

V. リウマチ科

整形外科：赤城 哲哉

(i) 概要

整形外科が関与する疾患として関節リウマチ(RA)が挙げられます。当院では主に整形外科でRAの診療を行っています。治療としては、薬物療法、リハビリ加療、手術療法を行っています。

- (1)薬物療法としては、従来の抗リウマチ薬(DMARDs)のほか、免疫抑制薬(メトトレキサート等)や、生物学的製剤(エンブレル等)を使用しています。
- (2)リハビリ加療としては、筋力強化と、可動域増大

訓練が主(基礎療法はいわば患者教育であり、保温、食事や日常生活の工夫点のほか、精神面の指導など)となっています。

- (3)手術は、関節破壊を防止するためのものと、破壊が進行した機能障害を改善するものに分けられますが、前者は滑膜切除術(関節鏡手術など)を中心に、後者は機能再建術(人工関節置換術など)を行っています。

(ii) R4年度および5年度リウマチ疾患による月別外来受診件数(整形外科)

(件)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
R4年度	44	56	48	74	33	71	44	53	51	45	41	49	609
R5年度	61	58	56	69	72	72	77	74	53	75	59	68	794

VI. 泌尿器科

泌尿器科部長：中村 武利

(i) 概要

この1年間は、当院入院時または入院後に排尿障害（尿閉に近い状態）が判明し、当科へコンサルトされる事例が増えています。その多くが外傷（主に骨折）での手術後や脳血管障害のご高齢の患者さんであるため、認知機能の低下もあり入院前の排尿状態の確認が難しい場合がほとんどです。また受傷時や手術後の疼痛の影響、ADLの低下等もあるため、限られた入院期間の中で、経過を見ながら排尿障害の要因

を確認する必要があります。

そのため、入院前のCT等で以前の排尿状態を推測し、入院中はエコー、ブラッドースキャン（残尿測定機器）や排尿記録を活用して、排尿状態を評価した上で、治療方針を決定するようにしています。

また、自宅退院、施設退院、転院等の事情に応じて、排尿管理の方法を提案するようにしています。

(ii) 外来週間スケジュール

(R5年3月31日現在)

	月	火	水	木	金	土
午前	新来・再来	—	—	—	中村武利	—
15時～(検査・予約処置のみ)	中村武利	中村武利	—	中村武利	—	担当医 救急対応
受付時間	8:30～11:30					

VII. リハビリテーション科

リハビリテーション科部長：平原 智雄

(i) 概要

リハビリテーション医療とは、身体機能の回復や日常生活の活動性を高めて社会参加につながることを目標としています。病気や怪我で、傷害を負った患者様に対して、その失った機能の回復や、できなくなってしまった動作能力の再獲得を目指して、治療・訓練を行う部門です。当院では小児から高齢者、障がい者やアスリートなど様々な方を対象に幅広い分野で診断と治療を行っています。

対象疾患としては、①脳血管障害・頭部外傷、②

運動器疾患・外傷、③脊髄損傷、④神経筋疾患、⑤切断（外傷・血行障害・腫瘍）、⑥小児疾患、⑦リウマチ性疾患、⑧循環器疾患・呼吸器疾患・腎疾患・糖尿病・肥満、⑨周術期の身体機能の障害の予防・回復、⑩摂食嚥下障害、⑪がん（悪性腫瘍）、⑫スポーツ外傷・障害などが挙げられます。

急性期・回復期・生活期にわたって、リハビリテーション医療チームで患者さんに寄り添う治療を行っています。

(ii) リハビリテーション部のスタッフおよび、施設基準

- 理学療法士（PT）：30名
- 作業療法士（OT）：23名
- 言語聴覚士（ST）：9名
- 歯科衛生士（DH）：1名
- リハ助手（ケアワーカー）：2名
- (1)心大血管疾患リハビリテーション料 I
- (2)脳血管疾患等リハビリテーション料 I（言語聴覚療法室：3室）
- (3)廃用症候群リハビリテーション料 I
- (4)運動器リハビリテーション料 I
- (5)呼吸器リハビリテーション料 I

(iii) リハビリテーション診察

入院患者さんに対しては毎週の回診を行い、また定期的に診察が必要な外来患者さんに対しては、各担当医で対応しています。

(iv) 外来週間スケジュール

(2024年3月31日現在)

曜日	月	火	水	木	金
担当医	大多和聡 (整形外科)	赤城哲哉 (整形外科)	大多和聡 (整形外科)	赤城哲哉 (整形外科)	担当医 (整形外科)

VIII. 放射線科

放射線科部長：前田 陽夫

月曜から金曜の午前・午後、全てCT・MRI・検診マンモグラフィの読影を行っています。

例年通り、一人体制で、仕事内容は特に変わりありませんが、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、漸く日常の診療に戻りつつあり、減少していたCT/MRI検査も増加傾向に転じています。

遠隔画像やCT/MRI装置を導入されたところもあるようで、検査依頼が減ったり、なくなったりした病院もありますが、新しく開業された先生や、従来から利用されている開業医の先生方からの検査依頼が増えてきており、院外からの検査依頼は多くなっているようです。院外からの検査が増えると同時に、患者さんへのインフォームドコンセント、クラーク・看護師・技師等から検査毎に来る連絡や問い合わせに対応する頻度も増えていきます。

院内の先生方にも入れ替わりがあり、熱源精査や入院前のルーチン検査、スクリーニングとしての全身CT依頼が増える傾向にあります。これに加え、再構成画像作成依頼も多く、目を通す画像の枚数は格段に増加しています。

いつの頃からか読影室にカビが生えだし、気がつくと、部屋中がカビだらけになっていました。しばらく原因がわからなかったのですが、コロナ対策に伴う空調の影響と解り、管理課より除湿機とサーキュレーターを設置してもらいました。しかし、カビの処理はしてもらえず、仕事の合間にせっせと掃除をしなければならぬ、そんな一年でした。

IX. 麻酔科

麻酔科部長：牛島 一男

2023年度の麻酔科管理症例数は313件(全身麻酔100、脊椎麻酔213)で、昨年度より約100例増加しました。外科手術の再開が主な要因です。大腿骨近位部骨折に対する早期手術の方針は維持されて

います。人工知能、遺伝子科学、再生医療などの進歩が医療界の様相を変えていくことが予想されますが、急性期医療を担う麻酔科の重要性は揺るがないと考えます。

X. 薬剤科

薬剤科科長：森 伸子

2023年3月に保険調剤薬局での勤務経験のある薬剤師が入職し、2023年度は薬剤師8名助手2名の合計10人体制でスタートしました。5月から新型コロナウイルス感染症が第5類に引き下げられたため、西4病棟がCOVID-19専用病床を抱えたまま一般病棟としても稼働しました。10月からは4年ぶりに以前の病床運用に戻ったため、薬剤業務もやや混乱しましたが、無事に病棟業務を遂行することができました。また、回診やカンファレンスも徐々に再開されてきており、対面で行われる委員会も増え、コロナ以前のやり方を思い出しながら通常を取り戻していきました。

5月からは外科医師が一新され、しばらく休止され

ていた外来化学療法も徐々に再開されたので、ガイドラインに基づいた最新のレジメンに関する情報の取得に努めています。

薬剤の供給制限問題はまだ解決の兆しが見えませんが、本年度も不足なく医薬品を提供できる体制を維持できています。

9月と3月に2名の薬剤師が産休に入り、マンパワー不足となりましたが、2024年4月から2名の新入職が予定されていたため、みんなで「4月までなんとか・・・」という思いで何とか乗り切ることができました。

XI. 中央放射線科

中央放射線科科長：騎馬 博親

(i) 概要

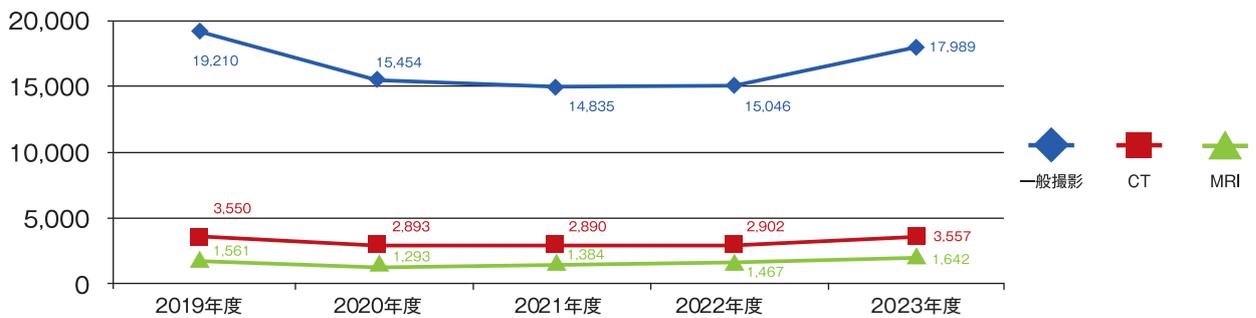
Covid-19が5月8日以降より5類感染症に移行されても、病院に訪れるコロナ患者は後を立ちませんでした。10月にはコロナ病床が廃止されましたが病院の方針として中央放射線科の対応はこれまでと同様のことを行っています。

中央放射線科の主な業務としてX線を発生させる装置とMRI装置の操作を主に執り行っています。土日・祝日の一日勤務や夜間の救急呼び出しの対応も地域医療の貢献に欠かせない役割と認識し、励んでいます。また、地域のニーズに応えられるよう新しい知識の習得も含め、できるだけ患者様の負担がか

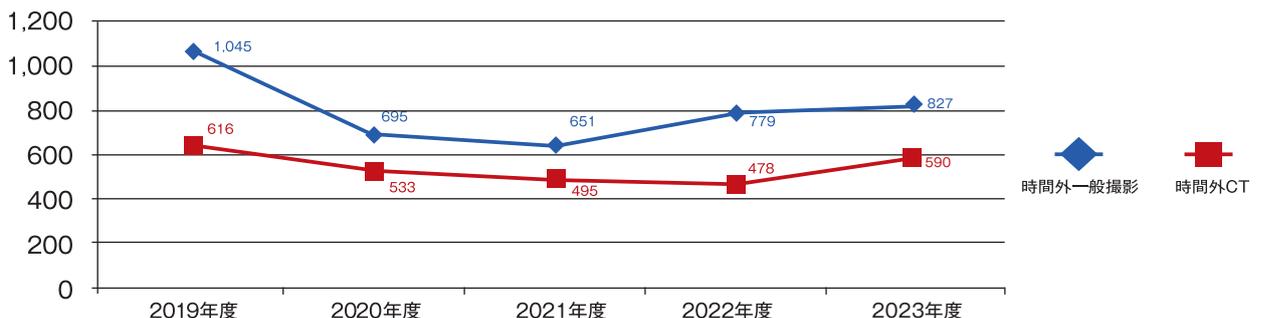
からないような方法を工夫し、安心して検査を受けていただけるように精進しています。今年度はX線CT認定技師および放射線管理士・医療情報管理士の資格取得者を輩出しました。資格保持者の増加も目指していきます。また、今年度は、FPD装置を2台更新致しました。その他の機器も随時更新していく予定です。

地域医療支援病院としての活動としての研修は、web研修『MRIの基礎』を執り行いました。今後も地域に貢献できるよう励んでまいります。

(ii) 放射線検査数



(iii) 夜間撮影状況



XII. 臨床検査科

臨床検査科科长：飯田 美紀

2023年度は、新入職者が1名加わり常勤技師9名で検体検査と生理検査の業務を行ってきました。夜間・休日はオンコール体制のため全員が全ての検査が出来るように、日々の業務もローテーションにて行っています。2023年度は、検体検査、生理検査ともに前年度より依頼件数が増えています。検体検査では、検査機器と検査システムの更新があり、新しい検査機器では検体処理能力が上がり、迅速な検査

結果の提供に繋がっています。超音波検査では、前年度から少しずつ検査領域と依頼件数が増え超音波検査に携わる技師も増えてきています。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、様々な制限が緩和されコロナ禍前の生活に戻りつつありますが、感染対策やコロナウイルスの検査は継続して行っており、コロナ禍での経験や学びは今後大事にしていきたいと思ひます。

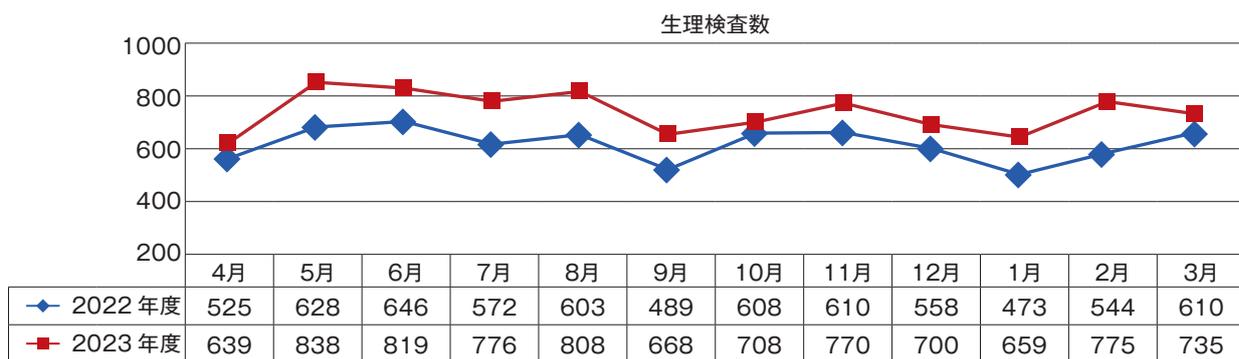
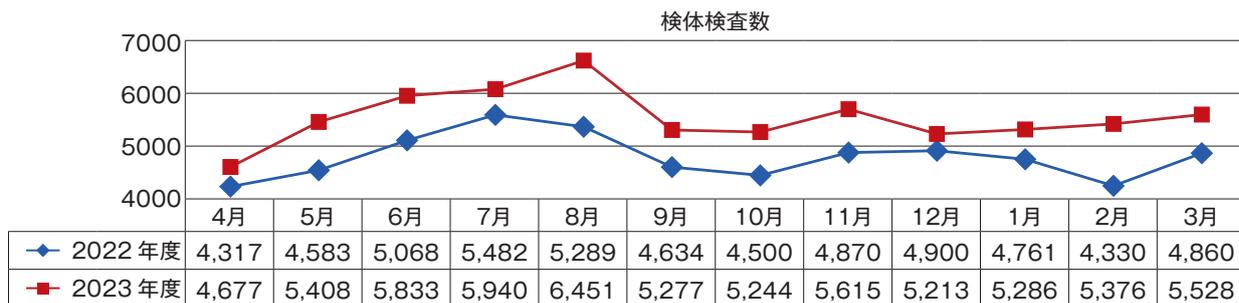
(i) 新規導入検査機器・検査項目

検査機器：レーザ血流計 Nahri MV monitor Premium

- 末梢閉塞性動脈疾患、重症虚血肢等のスクリーニングやアセスメントを目的とした検査です。

検査項目：血中FDP、直接ビリルビン、P型アマラーゼ、グリコアルブミン、PTH インタクト

(ii) 検体検査・生理検査の推移

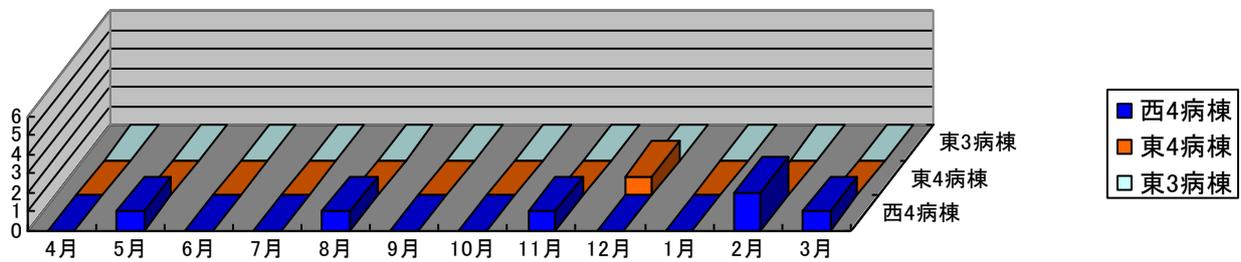


XIII. 臨床工学科

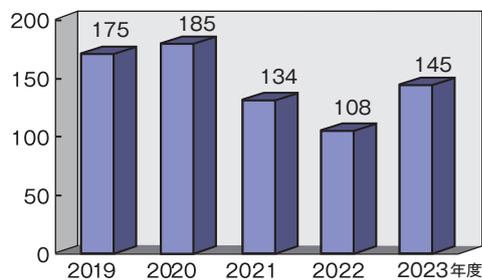
臨床工学科科長：前田 真吾

(i) ME 機器中央管理年間活動状況

2023 年度 病棟別人工呼吸器使用台数



2023 年度 年間のME機器修理及び依頼件数



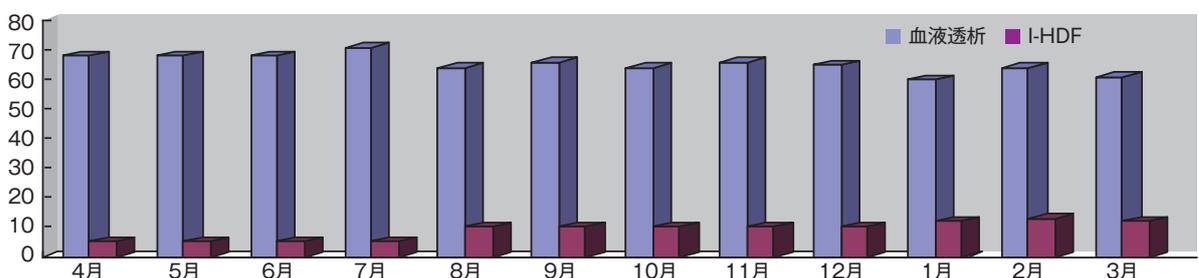
年度別依頼件数

	2019	2020	2021	2022	2023
依頼件数	175	185	134	108	145

(ii) 2023 年度血液浄化療法

腎・透析センターにて2023年度に施行した血液浄化療法及び治療人数の推移(特殊治療含む)

血液透析	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	73名	73名	73名	76名	74名	76名	74名	76名	75名	72名	77名	73名
血液透析	68名	68名	68名	71名	64名	66名	64名	66名	65名	60名	64名	61名
I-HDF	5名	5名	5名	5名	10名	10名	10名	10名	10名	12名	13名	12名



2023年8月にコニカミノルタ社製超音波画像診断装置 SONIMAGE MX1を1台購入しました。腎センター内ではエコー下穿刺、シャント機能評価に使用しています。リハビリ部ではエコーで筋肉や関節の動きを観察しながら理学療法を行っています。

腎センターでは2023年8月にオンラインHDFの治療が可能な患者監視装置TR-3300MtypeBが6台増え、透析患者さまの多様性に対応できる治療方法がさらに選択出来るようになりました。また、透析機械室内のB粉末剤自動溶解装置を購入し2022年に導入した装置統合監視支援システムMiracle DMACS EXと連動可能となったため、機器の異常が早期発見可能となりました。

ME機器ではニプロ株式会社製シリンジポンプが6台、ニプロ株式会社製小型シリンジポンプを1台新規購入しました。ニプロ株式会社製のシリンジポンプは輸液ポンプ同様に衝撃警報があり、より安全な医療が提供できるようになりました。



SONIMAGE MX1



シリンジポンプ SP-01 α-1

XIV. 栄養管理科

栄養管理科科长：森 美由希

(i) 概要

栄養管理科は、現在病院側管理栄養士5名、委託側管理栄養士2名、栄養士1名、調理師7名、調理作業員8名、食器洗浄業務の8名の31名体制(パート含む)で運営しています。

給食部門は、先に示した通り委託しています。人員は昨年度からの不足の状態が続いており、中々応募がなく人員の補充も出来ていない現状です。次年度に向け継続して委託部門の人員の補充に努めることと併せ、給食部門における業務の工程・内容の見直しを継続して行い、引き続き安全で美味しい食事の提供に努めます。

入院患者様の栄養管理は、十分な人数で対応できました。それぞれ病棟専任となり、病棟の特徴に合わせながら給食提供、指導に当たることができたと思っています。

学会・研修においては、Web研修会が増えた為、今年度も勉強の機会が多くありました。拝聴するだけではなく「第61回日本糖尿病学会九州地方会」で1題、「第27回日本病態栄養学会年次学術集会」では2題演題が採択され発表の機会を得ました。

栄養指導の件数は、個別栄養指導が961件で、そのうち外来の件数は390件(前年比105%)、入院の件数は571件(前年比115%)と、入院・外来ともに前年を上回る件数となりました。特に入院においては、

病床数の制限が無くなり患者数の増加が影響したと考えます。(下記参照)また、集団栄養指導に関しては2020年よりCOVID-19感染拡大予防のため中止していましたが、2023年5月より入院集団栄養指導及び生活習慣病教室(外来集団栄養指導)も再開しました。次年度も積極的な栄養指導介入を目指し、業務を進めていきたいと思えます。個別栄養指導依頼の疾患としては例年同様、糖尿病、高血圧症、脂質異常症、腎疾患が多くなっています。(統計参照)

給食の延食数は、185,452食/年であり、内訳は特別食86,547食(46.7%)、軟菜食63,320食(34.2%)、常食26,739食(14.4%)、調整栄養8,427食(4.5%)、流動食419食(0.2%)となっています。1回の食事提供数は平均で168食でした。(統計参照)

実習生は、2施設から4名受け入れています。実習先として責任をもって学生指導ができたと思っています。

今年度の科内の教育研修や勉強会も、予定通り無事終了する事ができました。外部の「小児1型糖尿病サマーキャンプ」も5名の管理栄養士が参加し医療スタッフとしての役割を果たしました。

今後も継続して質の高い業務を遂行できるように、皆で協力し業務に励んでいきたいと思えます。

年度	2019	2020	2021	2022	2023
外来	385	350	392	370	390
入院	659	630	677	495	571
集団	282	0	0	0	95
合計	1,326	980	1,069	865	1,056

※2020年度からCOVID-19感染拡大予防のために集団栄養指導は中止。また、その時々で病棟での個別栄養指導も制限あり。

XV. 連携支援課

連携支援課課長：石井 謙生

(i) 体制と業務内容

連携支援課は、病棟の相談業務を担当する「患者相談支援室」と地域医療連携業務（外来相談・転院調整含む）を担う「地域連携室」、院内の統計やシステムを担当する「情報システム室」の3室が協働して、業務を行っています。体制として、社会福祉士7名とSE2名、事務3名の計12名となっています。

(ii) 患者相談支援室業務

(1) 相談依頼件数（入院相談）

患者介入依頼件数は、1,476件（月平均約123件）です。

(2) 支援・相談内容別件数

入院患者に対する支援・相談件数は、延べ1,919件となります。支援・相談内容は（表1）のとおりで、退院に伴い生ずる多様な問題に対する「退院援助」が全体の約83%を占めています。

(3) 退院先一覧

支援ケースの退院先一覧は（表2）のとおりで、在宅（医療機関を除く）復帰は全体の約86%となっています。

また、退院先の施設（図1）は、有料老人ホームと介護老人福祉施設のみで施設の約58%を占めています。退院先の医療機関病床別（図2）では、一般病床と障害者施設等一般病床のみで医療機関病床の約53%を占めています。療養病床へは約16%です。さらに、退院支援に基づく「入退院支援加算」は1,204件842,800点、「介護支援連携指導料」は90件36,000点です。

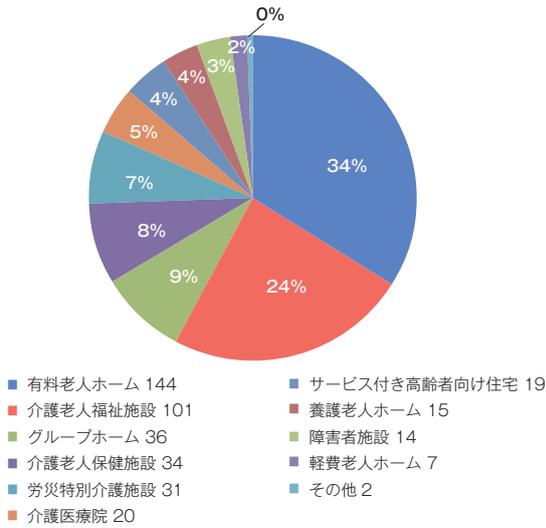
支援・相談内容別件数（表1）

支援・相談内容	件数
療養中の心理的・社会的問題の解決、調整援助	184
退院援助	1,599
社会復帰援助	1
受診・受療援助	113
経済的問題の解決、調整援助	22
合計	1,919

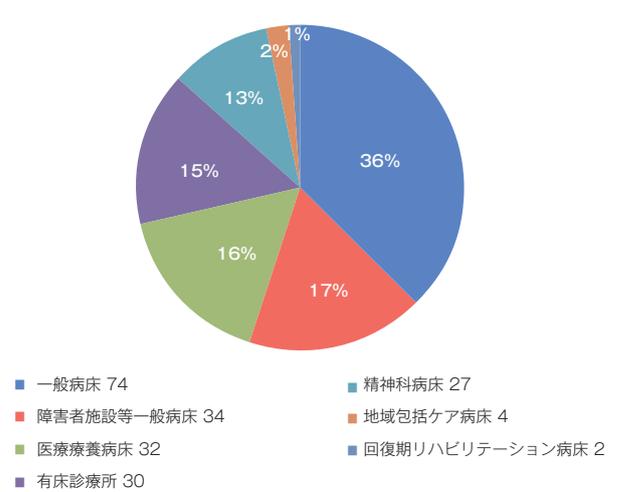
退院先一覧（表2）

退院先一覧	件数
自宅（永眠含む）	820
施設（介護施設・障害者施設等）	423（※図1）
医療機関	203（※図2）
合計	1,446

【図1】施設別一覧(総数423件)



【図2】医療機関病床別一覧(総数203件)



(4) 医療機関・介護施設等 連絡・調整

紹介していただいた医療機関・介護施設等へ、患者の治療経過及び退院予定日、希望の転帰先について連絡・調整を行っています。(表3)のとおり、延べ934 機関 (平均約78 機関/月)、延べ2,995 件 (平均約250 件/月)行いました。

【表3】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
機関数	56	66	87	78	72	85	85	83	72	88	80	82	934
件数	142	198	263	267	277	256	256	284	272	301	230	249	2,995

(5) 地域連携診療計画加算

前方医療機関からの紹介患者で算定出来たのは、脳卒中地域連携パス対象者は57 名で、大腿骨連携パス対象者は12 名でした。

(iii) 地域連携室業務

(1) 相談依頼件数 (外来相談)

院内外からの依頼による患者介入件数は、延べ534 件 (月平均約45 件)です。

(2) 他医療機関からの外来予約

外部の医療機関からの外来受診予約件数は、40 件です。

(3) 転院調整

当課では急性期病院等から転院の依頼を受け、転院調整を行っています。調整数（図3）は441件で、そのうち受け入れ患者数は360件です。病院別受け入れ患者数（図4）は、済生会熊本病院が188件と約52%を占め、次いで熊本労災病院が55件で約15%です。また、受け入れ患者数360件のうち232件（約64%）が回復期リハビリテーション病棟対象の患者で、病院別の内訳は（図5）のとおりです。

図3 転院調整件数
(総数441件)

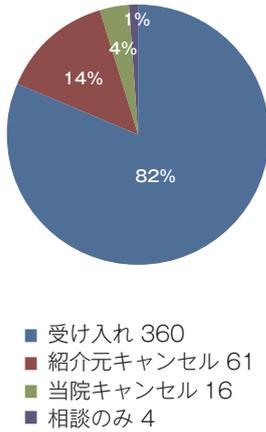


図4 病院別受け入れ患者数
(総数360件)

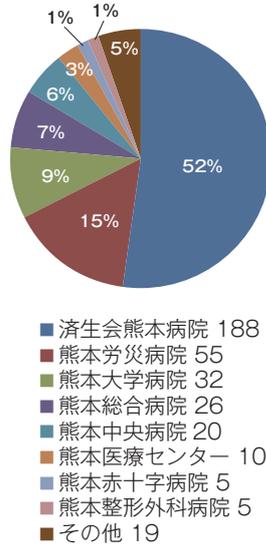
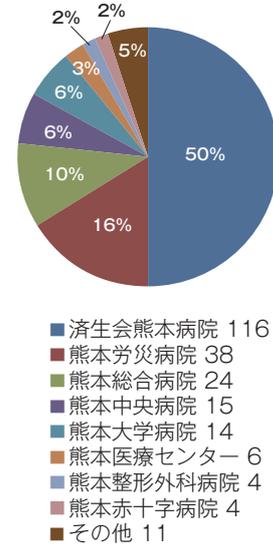


図5 病院別回復期対象患者数
(総数232件)



(4) 医療機関等訪問及び来院対応

連携医療機関・介護施設等へ訪問を行い、連携の強化と地域の社会資源の情報収集を行っています。新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、訪問機関数は（表4）のとおり、延べ79機関（医療機関54件、介護施設等25件）と控えています。

（表4）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医療機関 等訪問	医療機関	0	6	13	9	0	3	8	0	14	0	0	1	54
	介護施設等	0	1	0	4	0	1	8	1	10	0	0	0	25
来院対応数		9	8	10	19	10	5	4	7	23	13	10	15	133

(5) 地域連携会

「地域の住民、医療機関及び介護保険サービス施設等との共生を図る」ことを目的とした地域連携推進委員会を設置し、地域の医療機関・介護施設等との連携を円滑に推進するための審議を年7回開催しています。

また、地域連携に関する啓発、研修及び情報の収集・提供のため地域連携会研修会を年2回開催しています。今年度も新型コロナウイルス感染症対策として、手段を事前録画によるWeb研修へと変更しました。今後は、関係機関の皆さんとの情報交換や顔の見える連携を大切にし、方法等を工夫しながら必要とされる地域連携会研修会を目指していきたいと思っております。内容は（表5）のとおりです。

|(表5)

	開催日	参加機関・人数	内容
地域連携会研修会	第33回 2023年 9月11日 ～ 9月29日	参加機関:連携医療機関・施設 13機関 参加人数:168名	事前録画によるWeb研修(当院HPに掲載) 『二次性骨折予防の取組み』 ①「二次性骨折予防継続管理料の算定における 当院での活動」 薬剤科 主任 川崎 裕美 ②「骨代謝マーカーについて」 臨床検査科 海平 明奈 ③「骨粗鬆症と栄養」 栄養管理科 森 美由希
	第34回 2024年 2月13日 ～ 3月1日	参加機関:連携医療機関・施設 12機関 参加人数:371名	事前録画によるWeb研修(当院HPに掲載) 「ハンセン病とコロナに学ぶ患者人権」 院長 箕田 誠司

(6) くまもとメディカルネットワーク

当院では、医事課、医療秘書課と協働でくまもとメディカルネットワークの管理及び推進を図っています。また、今年度の当院の新規参加者数は(表6)のとおりです。

|(表6)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(件数)
22	45	40	32	23	27	24	20	34	39	21	19	346

(7) 地域在宅医療サポートセンター

熊本県から指定を受け、宇城地域の在宅医療を推進するため宇土地区医師会と下益城郡医師会の協力のもと、急変時対応や入退院支援、普及啓発、地域の関係団体との連携に向けた取り組みを行っています。

(iv) 情報システム室業務

(1) 相談依頼件数

依頼件数は1,320件(約110件/月)です。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(件数)
143	202	130	93	148	96	82	61	84	83	82	116	1,320

(2) CD 取込依頼件数

依頼件数は1,092件(約91件/月)です。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(件数)
82	92	90	75	88	76	110	89	93	94	97	106	1,092

XVI. 診療情報管理室

医療秘書課課長：高島 啓美

(i) 概要

診療情報管理室は医療秘書課の所属となり、医師事務作業補助者(医師クラーク)と連携を図りながら業務を行っています。診療情報管理室は、診療記録・診療情報を適切に管理、運用、保管し、情報活用への支援を行う部署です。電子カルテ記録の点検を行い、精度の高い記録が保存されるよう支援するとともに、そこから得られる診療情報を集計分析し、病院運営の資料及び、より良い診療を行うための指標

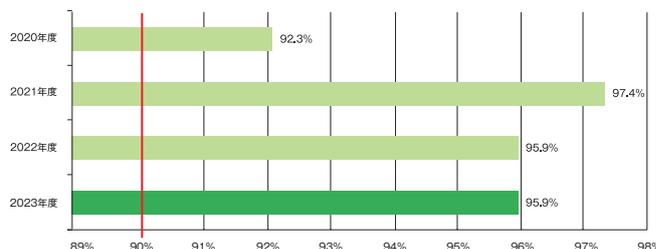
として院内に情報提供を行います。現在は専従の診療情報管理士2名、事務スタッフ2名の4名体制で業務を行っています。今年度から「(厚生労働省)医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」に準拠しスキャン文書の取扱いについて「電子署名」および「タイムスタンプ」を導入することにより、スキャン文書の真正性を確保して保存しスキャン文書のペーパーレス化を実現する事に近づけました。

(ii) 業務内容

- 1) 全退院患者サマリーの退院後2週間以内作成状況の確認と督促
- 2) DPC コーディングチェック(診断群分類)
- 3) 様式1の作成・・・国際疾病分類に基づく分類(ICD-10)
- 4) 病床管理における「病床状況一覧表」の作成
- 5) スキャナ取込業務・取込文書の点検業務・取込後文書の保管管理業務
- 6) 情報提供(カルテ開示)への対応
- 7) 全国がん登録のデータ提出
- 8) 診療情報データの抽出と加工、疾病統計表の作成<地域医療構想など>
- 9) 病院情報の公表 ※宇城総合病院ホームページ
- 10) DPC 診療データの精度向上についての取り組み(DPC委員会など)

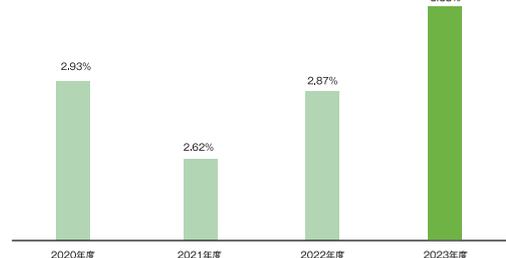
(iii) 2023年度 診療情報管理士の業務

2週間以内の退院サマリー作成率



算定要件:退院後2週間以内の退院サマリー作成率が毎月9割以上であること

部位不明・詳細不明コード推移

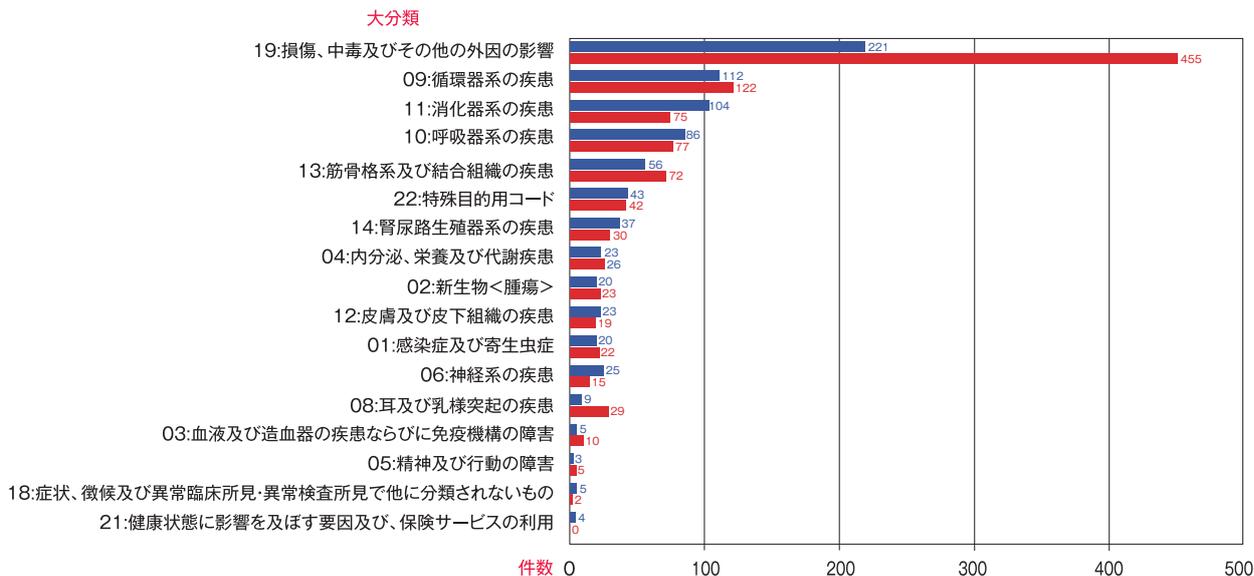


※【適切なDPCデータの作成を維持するため、診療情報管理室では5%以下を目標値としています】

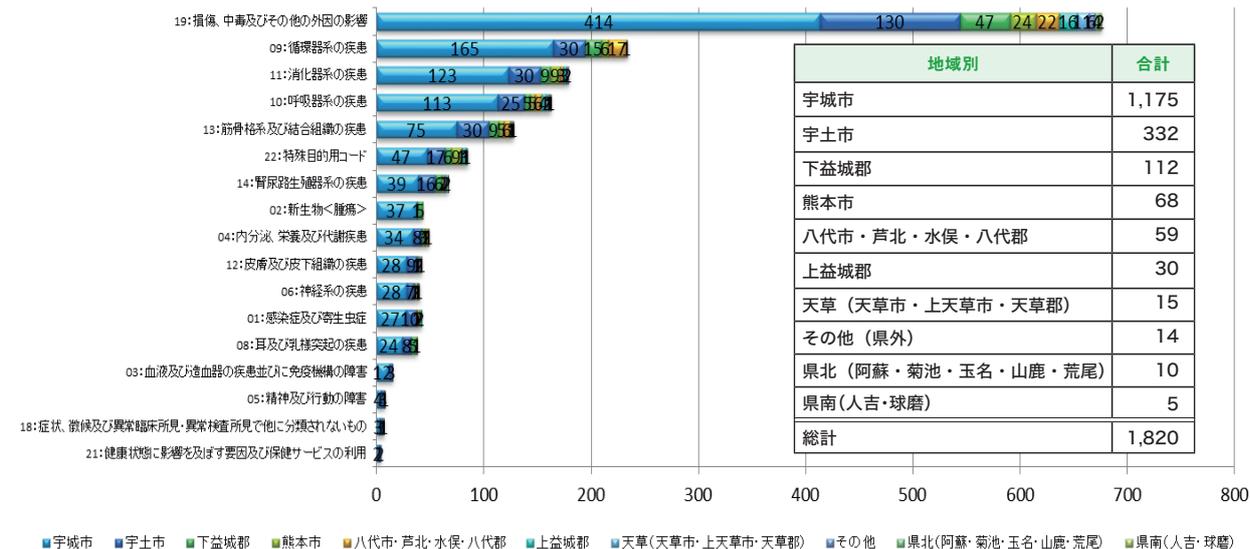
※【「退院患者調査」の様式1(医療資源病名)における「部位不明・詳細不明コード」の使用割合が10%未満】

(iv) 2023 年度 退院患者数

疾患別・性別退院件数 (1,820件)



地域別・疾患別退院件数 (1,820件)



XVII. 理学療法科

理学療法科科长：山口 里美

(i) 概要

理学療法科は、男性16名・女性14名、総勢30名の理学療法士が在籍しています。

平均年齢36歳で、経験年数は平均14年です。10年以上の経験者が25名おります。

確かな知識と技術で、患者様お一人おひとりの自己回復のお手伝いをしています。

理学療法とは、病気や怪我などで身体に障害の

ある患者さんに対して、基本的動作(座る、立つ、歩くなど)を自分で出来るようになる事を目標に、治療・訓練を行なうのが主な役割です。

対象疾患は、脳血管疾患(脳梗塞・脳出血・硬膜下血腫)や整形疾患(脊椎圧迫骨折・大腿骨近位端骨折・変形性関節症・靭帯断裂)、心疾患(慢性心不全・弁置換術後)廃用症候群(肺炎

後・外科術後)など様々です。

リハビリテーションは、医師・看護師・薬剤師・栄養士・MSW・療法士など、多くの職種が関わり、チーム医療として、様々な患者さんの身体状況や家

庭環境に応じた社会復帰のお手伝いをします。回診やカンファレンスを通して情報共有を図り、患者さんやご家族の想いに寄り添えるように、話し合いを重ねて退院に繋げています。

(ii) トピックス

健康相談窓口開設

当院職員の腰痛や頸部痛などに対するリハビリ処方が多くなり、勤務中や有休時間を利用して、リハビリテーションを受診される方が増えました。受診や治療が必要なほど重症化する前に、相談できる窓口を置くことで、職員の健康維持に貢献できないかと考え「健康相談窓口」を開設しました。対象は、当院

職員であれば誰でも相談可能です。業務終了後の時間を利用して、理学療法士が当番制で対応します。「腰や首が痛い」「姿勢が悪くなったような気がする」など、身体の不調や違和感を感じたら、悪化する前に一度ご相談下さい。身体状況を評価し、適した運動指導やアドバイスを発行いたします。

(iii) スマートライフプロジェクト

リハビリ室の開放

当院が取り組んでいるスマートライフプロジェクトの一環として、リハビリテーション部では、職員を対象としてリハビリ室の開放を実施しています。昼休みや終業後など、患者さんが使用されない時間帯は、室内にあるトレーニング機器を自由に使用する事が出来ます。皆さん、筋力強化・体力向上、身体の整え等を目的とした自主訓練を頑張っておられます。

また、スマートライフプロジェクトチームによる情報発信も毎年行なっています。今年度は「自分の体は自分でメンテ ～安全で健康な職場づくり～」をテーマに地域医療支援病院研修として動画配信を行ないました。産業保健とは、職業病とはどういったものがあるのか。予防するために必要な知識や予防体操をお伝えしました。今後も、皆さまに役立つ情報を発信していく予定です。

スマートライフプロジェクトチームにおける情報発信

産業保健とは？

- 労働者の条件や状態を把握し、改善する支援を行うこと
- 目的・・・健康に働き、生産性を向上させる

職業病とは？

- 業務上の負荷による疾病
- 物理的因子による病気
- 身体に過度の負担のかかる作業態様による病気
- 化学物質が原因の病気
- 粉じんを吸い込むことによる発症する病気
- 細菌やウイルスが原因の病気
- がん原性物質による病気
- 長時間労働による病気

健康相談窓口案内

「健康相談窓口」始めました。
～毎日健やかに仕事しましょう～

- 仕事して腰が重い...
- 自然と肩がこる...
- 階段がつかない...
- つまずきやすい...

※どの悩みに理学療法士が個別対応します(〃)

Smart Life Project 毎日健康相談窓口362番 (内科) まで。

健康相談窓口のご案内

- リハビリ健康窓口へ電話
→受付は20時迄受付いたします。
※夜間・休日受付はございません。
- 事前に基幹受診センターを済ませ
→非対応のことに関して事前に記入ください。
- 対応時間：月～金曜日 17:30～18:00
→ご相談に際して事前予約は不要です。
※一部のご相談は予約が必要となります。
※当日のご相談は予約が必要となります。

Smart Life Project 毎日健康相談窓口362番 (内科) まで。

予防するためには？
デスクワークでの予防

- 背もたれのついた椅子を使用する
- モニターの高さは水平視線より下にディスプレイは眼から40cm以上の位置に設置する
- 肘(肘間)と手(手間)を揃える(肘関節角度は90度となるように調整する)
- 椅子・机は高さ調整ができる物を使用する
- 足元の空間を確保する

デスクワーク時に意識するポイント

生活習慣病の予防

- 生活習慣病の予防には「運動」が有用
- 労働者は運動をする時間の確保が難しい
- 力仕事で体を動かしているからしなくていい
- 仕事でつらい活動は休憩での運動とは異なり、生活習慣病の予防には効果が低いと有弊あり
- 生活の一部に運動を取り入れる工夫が予防の第一歩！
- 機嫌でできるだけ階段を使用する
- 駐車場では遠い場所に車を留めて歩く機会を確保する

スマートライフプロジェクト



終業後の風景



お昼休みの風景

XVIII. 作業療法科

作業療法科科长：宮本 康弘

作業療法は、日常生活の中にある色々な作業活動を用いながら行うリハビリテーションで、患者さんの「こころ」と「からだ」に働きかけます。23名の作業療法士が、患者さんが心身ともにバランスのとれた生活を送っていただけるように、またその人らしい生活に戻っていただけるように誠心誠意向き合って頑張っています。スタッフは、一般病棟と外来5名、地域包括ケア病棟5名、回復期リハビリテーション病棟13名で業務に当たりました。

作業療法では、患者さんの日常生活動作(以下、ADL)の獲得に向けた取り組みを行っています。直接病棟に出向き動作の練習を行い、患者さんのADLがどのような場所でも同じようにおこなえるよう病棟スタッフと一緒に協力しながら訓練を行っています。

令和5年度は、5月にコロナウイルス感染分類が5類に変更となり、感染対策を講じながらの業務も徐々に緩和されていきました。まず、各病棟間のスタッフの移動ができるようになり全病棟の患者さんの訓練に介入ができるようになりました。また、スタッフだけで行われていた退院前自宅訪問に患者さんの同行ができるようになり、患者さんが入院中に行う外出訓練も再開することができました。マンパワー不足で取り組み件数は少なかったですが、外出訓練は、その人に必要とされる動作訓練を実際の場所で行うもので、特に自宅に戻れ

る患者さんにとって大切な訓練であるため、今後も必要な訓練として取り組んでいきたいと思っています。

一方で、入院患者さんと外来患者さんの訓練スペースの区分けは変わらず感染対策への取り組みは継続されました。

院内業務として、一般病棟では中枢疾患や運動器疾患の患者さんの基本動作、トイレや食事動作を中心とした動作の早期獲得を目指して取り組みました。地域包括ケア病棟と回復期リハビリテーション病棟は、患者さんのそれぞれの身体能力に応じたADL訓練や応用動作訓練を工夫して行い、自宅や施設退院にむけて取り組みました。さらに、週に一回早出遅出業務を行い嚙下回診の業務を継続して行いました。また、入院・外来ともに高次脳機能障害のある患者さんの自動車運転にかかる評価も継続して行い、ドライブシュミレーターによる訓練も併用して行っています。

作業療法は、患者さん本人がしたいと思う生活ができるようになり、喜びを取り戻すことを目標としています。当院では患者さんの入院前の生活を把握し、退院後の生活まで見据えて支援しています。患者さん一人一人の情報収集を行い、それをもとに作業療法を展開し、患者さんの退院先に正確に情報を伝えていくことがその人らしい生活につながっていくものと考え今後も取り組んでいきたいと思っています。



家事動作（調理動作）訓練



入浴動作訓練



スプリングバランサー(上肢作業訓練)



ドライブシュミレーター



趣味活動（縫い物）



趣味活動（折り紙細工）

XX. 言語聴覚療法科

言語聴覚療法科科长：小田 実穂子

(i) 概要

2023年度は定数の8名体制で運営しています。病棟担当制ではありますが、スタッフの急な休みなど人出不足の際には、他病棟の患者様にも介入させていただき出来る限り訓練がお休みにならない様心掛けています。

また、2023年4月より新たに吃音外来を始めまし

た。病院のホームページにも掲載させていただき、問い合わせ件数は徐々に増えてきています。症例の年齢別では、幼児が最も多く32%

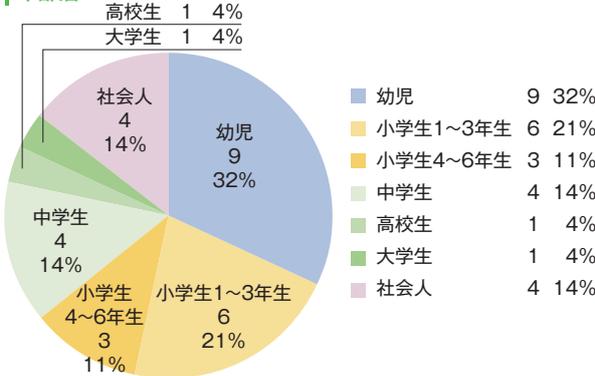
在住エリア別では宇城・宇土・八代が多く36%でした。2024年3月時点でのべ介入件数は110件、実患者件数は28件となっています。

2
中央
診療
部門

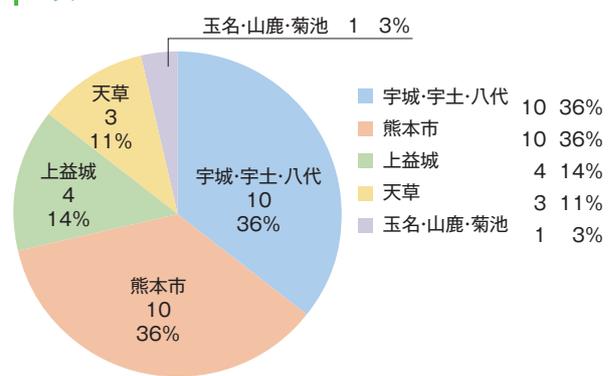
介入・問い合わせ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介入件数	4	4	3	5	16	7	9	10	13	9	15	15	110
問い合わせ件数	0	7	1	5	4	3	5	1	2	4	1	1	34

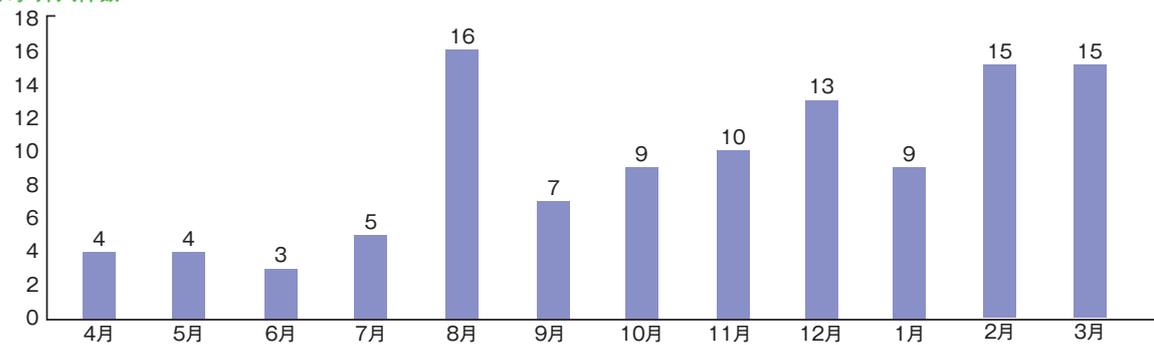
年齢層



エリア



月毎介入件数



(ii) 対象患者実患者数

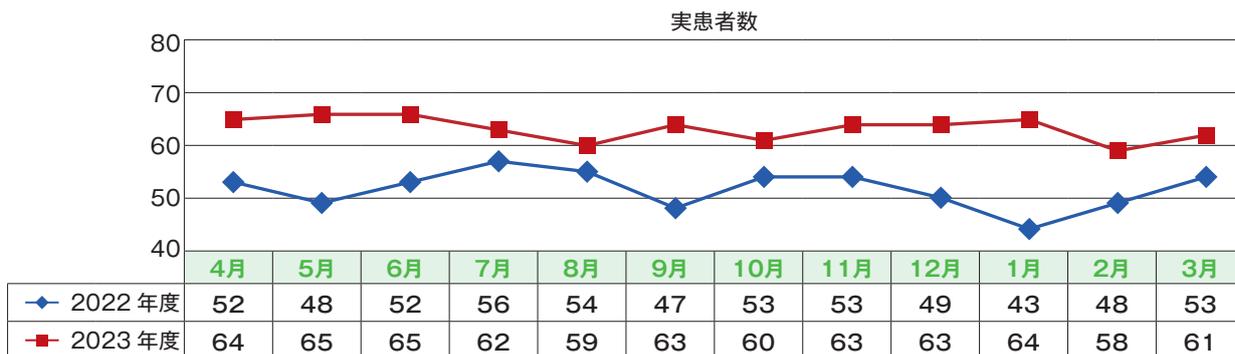
言語聴覚療法の対象患者実患者数は2019年度が547件、2020年度が575件、2021年度が650件、2022年度が608件、2023年度は747件(外来は除く)と過去5年間の間では2023年度が一番多い介

入件数となっています。

以下に2022年度と2023年度の実患者数の比較を示します。

2022年度と2023年度の対象者実患者数の比較

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年度	52	48	52	56	54	47	53	53	49	43	48	53	608
2023年度	64	65	65	62	59	63	60	63	63	64	58	61	747



(iii) 嚥下回診と嚥下評価について

NST委員会の摂食・嚥下チームの活動として、平成28年4月からスタートした嚥下回診も8年が経過しました。

毎週水曜日の朝・昼・夕の3回、食事時間に病棟看護師、管理栄養士、作業療法士、言語聴覚士、歯

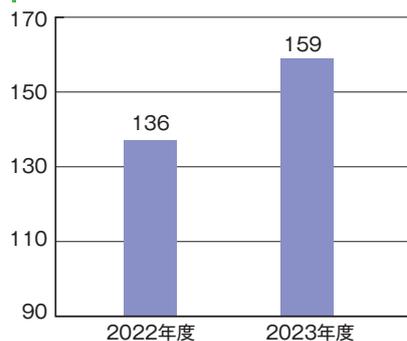
科衛生士(昼食時のみ)のメンバーでラウンドし、姿勢のチェックや食事介助法の伝達、食事形態の評価、トロミ段階の評価等を行っています。

以下に2022年度と2023年度の嚥下回診該当者数の比較を示します。

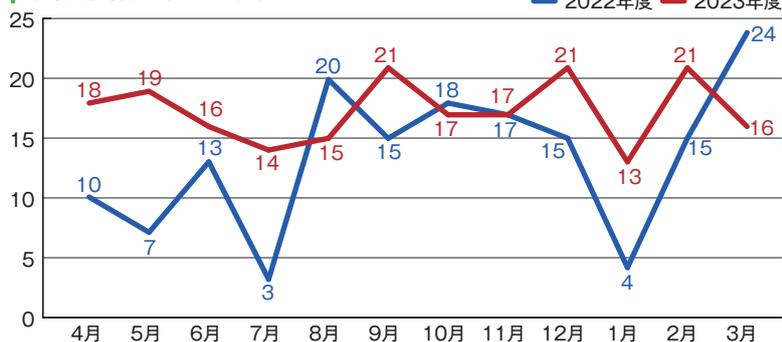
月毎実施件数 (実人数)



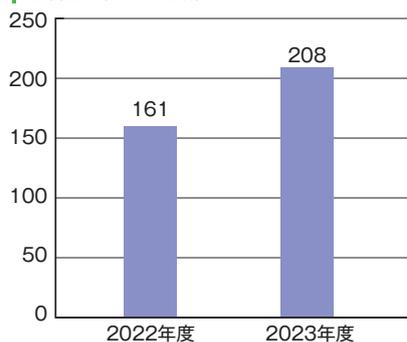
患者数 (実人数)



月毎実施件数 (のべ人数)



患者数 (のべ人数)



嚥下回診につきましては、2021年度ののべ該当者数が188件、2022年度は161件、2023年度が208件と増加しました。言語聴覚士のみが単独で行っている嚥下評価の依頼件数が実患者で2020年度が252件、2021年度が617件、2022年度が545件、2023年度が725件2021年度からどんどん増えてきています。のべ患者数にしますと2020年度が389件、2021年度が858件、2022年度が681件2023年

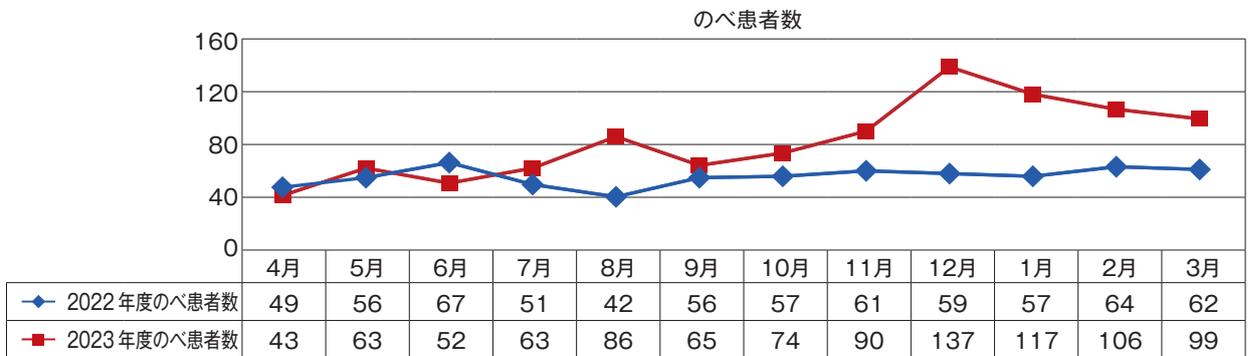
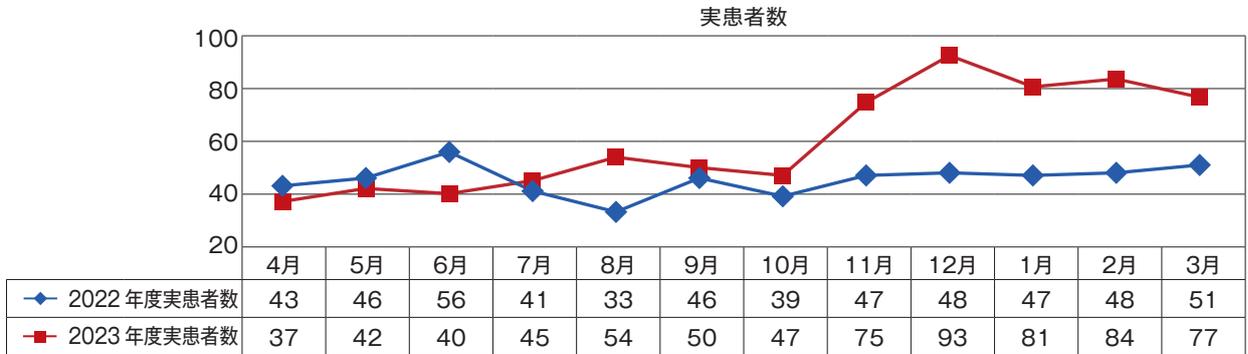
度995件となっています。

西3病棟(地域包括ケア病棟)に加え、東3病棟(回復期リハビリテーション病棟)でも11月より入棟時評価として全患者様へ介入させていただくようになったことが大きな要因と考えています。

以下に2022年度と2023年度の嚥下評価の依頼件数の比較を示します。

| 2022年度と2023年度嚙下評価件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
22年度実患者数	43	46	56	41	33	46	39	47	48	47	48	51	545
23年度実患者数	37	42	40	45	54	50	47	75	93	81	84	77	725
22年度のべ患者数	49	56	67	51	42	56	57	61	59	57	64	62	681
23年度のべ患者数	43	63	52	63	86	65	74	90	137	117	106	99	995



XX. 宇城地域リハビリテーション広域支援センター

科長：山下 智弘

(i) はじめに

平成21年4月より、熊本県より宇城地域リハビリテーション広域支援センターの指定を受け、15年目を終わりました。平成24年度から始まった宇城市様からの事業委託も12年経過し、『宇城市介護予防事業・日常生活支援総合事業』・『宇城市地域リハビリテーション活動支援事業』として実施できました。同時に「宇城市地域ケア個別会議」・「総合事業評

価会議」への参加等、年度を重ねる毎に、行政担当者様や地域包括支援センター担当者様、社会福祉協議会担当者様、地域密着リハビリテーション様、各施設の方々と関わりを深めることができました。

また、コロナウイルスの5類以降後は、コロナ感染拡大以前の状況に少しずつ戻る1年でもありました。

(ii) 介護予防事業所等のサービスの質の向上への支援（委託業務）

(1) 研修会開催状況

開催日	研修会名	研修の概要(テーマ、講師、参加者、参加人員)
2023/6/1 10:00~12:00	「健康で長生きするための研修会」	<p>内 容:テーマ:「お口の健康が大切です!」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①全身疾患と深い関係がある歯周病 ②認知症と歯周病の関係 ③オーラルフレイル(口の衰え)について ④オーラルフレイルを防ぐための実践 ⑤質疑応答 <p>対 象 者:退職教職員協会宇城地区部会会員、地域民生委員さん 参加人数:19名</p>
2024/2/21 13:30~15:00	「地域で実施して欲しい運動プログラム研修会」	<p>内 容:テーマ:「効果的な運動プログラムについて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①高齢者の身体・運動機能の特徴について ②効果的な運動プログラムについて ③質疑応答 <p>対 象 者:介護予防サポーター、宇城市高齢介護課担当者 宇城地包括支援センタースタッフ、社会福祉協議会スタッフ 参加人数:32名</p>

(2) 地域リハビリテーション等に関する相談支援：出張相談回数 30回

(3) 介護予防関係機関との連絡会の開催 3回/年

開催時期	対象者	主なテーマ
2023/9/26 16:00~ 17:00 *Web会議	<p>美里町福祉課、 宇城地域振興局 地域包括支援センター、 地域密着リハビリテーションセンター 地域リハビリテーション広域支援センター</p> <p>計:8名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①報告事項 <ul style="list-style-type: none"> 1)各担当者様より、令和5年度上期の振り返り 2)運動機能評価について 3)その他 ②協議事項 <ul style="list-style-type: none"> 1)令和5年度 各種事業等における課題について 2)各担当者より、令和5年度下期の計画について 3)令和6年度事業計画・予算について 4)10月1日以降のコロナ対策について 5)その他 ③意見交換
2024/3/6 16:00~ 17:00 *Web会議	<p>美里町福祉課 地域包括支援センター、 地域密着リハビリテーションセンター 地域リハビリテーション広域支援センター</p> <p>計:7名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①報告事項 <ul style="list-style-type: none"> 1)各担当者様より、令和5年度の振り返り 2)「地域リハビリテーション広域支援センターの指定及び運営要項」の改正について 3)その他 ②協議事項 <ul style="list-style-type: none"> 1)令和5年度 各種事業等における課題について 2)各担当者様より、令和6年度の計画について 3)地域連携ミーティング開催について 4)その他 ③意見交換

開催時期	対象者	主なテーマ
2024/3/11 15:30～ 16:45 *Web会議	宇城市高齢介護課 地域包括支援センター 宇城市社会福祉協議会 地域密着リハビリテーションセンター 地域リハビリテーション広域支援センター 計:10名	①報告事項 1)各担当者様より、令和5年度の振り返り 2)「地域リハビリテーション広域支援センターの指定及び運営要項」の改正について 3)その他 ②協議事項 1)令和5年度 各種事業等における課題について *日常生活支援総合事業について *通いの場等各種事業について *地域ケア個別会議等について 2)各担当者様より、令和6年度の計画について 3)地域連携ミーティング開催について 4)令和6年度地域個別ケア会議 リハ専門職助言者・オブザーバーについて 5)その他 ③意見交換

(4) リハビリテーション専門職の派遣調整

派遣調整：広域支援センター職員派遣 198回 延 219名

(iii) 市町村介護予防事業への効果的な実施への支援 (指定業務：委託業務以外)

(1) 事業所への派遣

	依頼元	派遣回数	派遣職種	派遣延人数	実施内容	備考
1	宇城市	135回	理学療法士	135名	介護予防に関する講義ならびに運動指導・運動の習慣化を図る	令和5年度宇城市介護予防・日常生活支援総合事業「筋力アップ教室」
2	宇城市	4回	理学療法士	4名	「体力測定方法」「百歳体操」「コグニサイズ」等の講義と実技指導	「宇城市うきスマイルサポーター養成講座」にて講義・体操指導
3	宇城市社会福祉協議会	1回	理学療法士	1名	「体力測定方法」「介護予防体操」についてフォローアップ目的での講義と実技指導	「宇城市うきスマイルサポーターフォローアップ講座」にて講義・体操指導
	計	140回		140名		

(2) 地域ケア会議等への派遣

	依頼元	派遣回数	派遣職種	派遣延人数	実施内容	備考
1	宇城市	11回	理学療法士	18名	個別ケア会議の助言者およびオブザーバー	オンラインにて開催
2	宇城市	1回	理学療法士 作業療法士	2名	圏域別地域ケア会議(松橋町)	参集式にて開催
	計	12回		20名		

(iv) その他、地域リハビリテーションの推進に必要な業務
(指定業務：委託業務以外)

	依頼元	派遣回数	派遣職種	派遣延人数	実施内容	備考
1	宇城市	3回	理学療法士	4名	令和5年度 宇城市総合事業連携会議	オンライン・参集式にて開催
2	宇城市	1回	理学療法士	1名	宇城市一般介護予防・介護給付費適正化事業評価会	参集式にて開催
3	宇城市	12回	理学療法士	24名	宇城市 総合事業評価会議	1回/月 オンライン開催
4	宇城市	1回	理学療法士	1名	宇城地域リハビリテーション 広域支援センター連携会議	済生会みすみ病院主催 オンラインにて開催
5	宇城市	2回	理学療法士	2名	宇城地域在宅医療サポートセンター連絡会	オンラインにて開催
6	宇城市	1回	理学療法士	1名	宇城市地域ケア会議推進事業会議	5月 オンラインにて開催
7	宇城市	1回	理学療法士	1名	宇城地域在宅サポートセンター研修会	9月・3月 オンラインにて開催
8	宇土市	2回	理学療法士	2名	宇城地域リハ広域支援センター地域連携ミーティング	あさひコート主催 オンラインにて開催
9	熊本県	1回	理学療法士	1名	県リハ主催 令和5年度運動器機能評価報告会	9月開催
10	熊本県	2回	理学療法士	2名	令和5年度熊本県各圏域リハビリテーション支援センター連絡協議会	10月・1月 オンラインにて開催
11	熊本県	1回	理学療法士	1名	令和5年度 熊本県地域リハビリテーション研修会	10月開催
12	熊本県	1回	理学療法士	1名	熊本県地域リハビリテーション推進会議	3月 オンラインにて開催
計		28回		41名		

2 中央診療部門

XI. 回復期リハビリテーション病棟科

病棟科長：塚本 一精

回復期リハビリ病棟実績	2023年度
回復期リハビリ病棟入院患者数	380名
リハビリ実績指数	48.9
リハビリ実施総単位数	103,457単位
入院患者構成(人数)	2023年度
脳血管疾患、脊髄損傷など	155名
大腿骨、脊椎、骨盤の骨折など	225名
脊椎疾患の術後 神経、筋、靭帯損傷	3名
人工膝関節、股関節置換術後	7名
急性心筋梗塞、狭心症、心大血管術後	3名
入院患者構成(人数)	2023年度
在宅等へ退院	255名
介護老人保健施設	14名
他院へ転院	31名
その他	26名
在宅復帰率(%)	85%
FIM改善率(%)	2023年度
重傷者(FIM55点以下)数	177名
比率	54.3%
退院時のFIM総得点が16点以上改善した重症者の数、割合	51.5%

2023年度、回復期リハビリ病棟は前年比6%程度の患者数増加。内訳は、脳血管疾患が4割、運動器疾患が6割でした。重症患者(FIM55点以下)が54.3%と前年度に比べると重症患者が5%程度増加しました。しかし、FIMの改善率は良好で実績指数48.9と過去最高値となりました。要因はコロナ禍を脱し、十分なリハビリテーションができるようになった事が大きく、また昨年導入したロボットリハビリ機器も奏功しました。

実績指数:リハビリテーションを提供したことによる

改善を示す数値であり、実績指数27点以上で、「効果に関わる相当程度の実績が認められる。」と判断されます。回復期リハビリテーション病棟入院料1を算定する場合は、実績指数40以上が要件となります。その為には、発症早期からの患者様を積極的に受け入れ、医師、看護師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカー等と密に連携し、リハビリテーションを行う事が大切です。また医療と介護のシームレスな連携を図る為に、カンファレンスを毎月開催しご退院に繋げています。

XXII . 腎・透析センター

腎・透析センター長：石田 秀太

(i) 概要

腎透析センターは、広く、明るいワンフロアになっています。透析中のベッドサイドで患者さんの経過情報をリアルタイムに入力できる透析部門システムと電子カルテを併用し、透析導入、維持透析、特殊治療(IHDF,CARTなど)を行っています。透析機器の定期更新に併せて新しい透析装置を導入しており、昨年度から患者さんの状態に応じてIHDFやオンラインHDFを外来で積極的に導入しています。入院に関しては急性期病院から脳血管疾患、整形

疾患、心血管疾患など回復期リハビリを必要とする血液透析患者の受け入れ要望が多く、ベッドをほぼフル稼働している状況です。また感染対策のため外来と入院のベッドを区別している関係上、転院の受け入れには時間を要しています。今後も腎透析センターの機能強化を図り、医師、臨床工学技士、看護師、看護補助者、事務のチームワークで効率的な血液浄化治療を目指していきます。

1) 勤務人員

医師 2名:(腎臓内科、腎・透析センター長)石田 秀太 (泌尿器科部長)中村 武利
臨床工学技士 6名 看護師 15名(うちパート5名) 看護補助者 1名

2) ベッド数:35床

3) 透析治療

月、水、金 午前1クール、午後1クール 火、木、土 午前1クール

4) 患者推移

導入 4名、転入 57名、転出 49名
患者総数 74名 (2024年4月1日現在)

透析スケジュール (2024年4月1日現在)

	月	火	水	木	金	土
午前	石田 秀太	中村 武利 石田 秀太	石田 秀太	石田 秀太	中村武利	第1 / 小笠原 英幸 第2・4 / 石田 秀太 第3 / 中村 武利 第5 / 担当医
午後	松下 昂樹 (熊本大学)	—	泉 裕一郎 (熊本大学)	—	石田 秀太	—

XXIII. 糖尿病センター、内分泌・代謝内科

糖尿病センター長：蛭原 賢司

(i) 概要

2024年4月現在、糖尿病センターでは日本糖尿病学会指導医(内分泌代謝・糖尿病内科領域指導医に移行予定)1名、同専門医1名、非常勤医師1名の3人体制で診療を行っています。

当センターは日本糖尿病学会の糖尿病教育認定施設として認定を受けています。更に、外来看護師、管理栄養士、理学療法士等が多数日本糖尿病療養指導士の資格を有しており、フットケア指導・糖尿病透析予防指導を含め、糖尿病に関するさまざまな療養指導を行っています。1型糖尿病に対するフラッシュ・グルコースモニタリング(フリースタイル・リブレ)を用いた豊富な治療経験を有し、保険適応が広がった2020年からは2型糖尿病に対しても治

療範囲を拡大しています。

内分泌・代謝内科では、間脳下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺に関連する内分泌疾患、および各種代謝性疾患の専門医療を行っています。日本内分泌学会指導医(内分泌代謝・糖尿病内科領域指導医に移行予定)1名、常勤医師1名の2人体制で行っています。

外来診療スケジュールは下記の通りです。2020年度以降の外来受診者数は減少していますが、新型コロナウイルス感染症による外来受診抑制行動の影響と思われます。

2
中央診療部門

(ii) 外来週間スケジュール

(2024年4月1日現在)

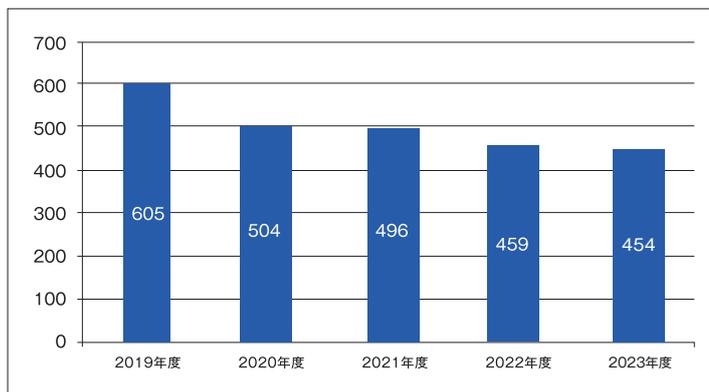
診療科目	曜日	月	火	水	木	金
糖尿病代謝疾患	担当医 (午前)	蛭原 富田(非)	宮村 蛭原	宮村 富田(非)	宮村 蛭原	宮村 富田(非)
内分泌	担当医 (午前)	蛭原	宮村 蛭原	宮村	宮村 蛭原	宮村

(iii) 年次活動報告・トピックス

院内：毎月1回の生活習慣病教室実施

院外：熊本県糖尿病協会主催・共催の各種行事への参加協力(小児糖尿病サマーキャンプ、ウォークラリー、糖尿病週間行事、世界糖尿病デー記念行事等)宇城市主催の宇城市健康フェアへの参加協力等

月平均外来患者数の年次推移



XXIV . 救命救急センター

診療部長：毛井 純一

2019年12月ころからCOVID-19が日本国内で広がり始めた初期段階から、全国的に救急車搬送数が減少するという傾向が見られました。外出を控えることで感染症の罹患や事故、または飲酒による障害に遭遇する頻度が低下したことが原因と考えられています。当院でも同様の推移でした。

もともと当院では全病床204床のうち、緊急入院を受け入れる一般病床は98床(2病棟)でしたが、感染症指定医療機関のため、2020年2月の県内感染拡大により、1病棟をすべて感染病棟にする必要があり、救急車の受け入れできる一般病棟が半分に制限され、同月から救急車受診例はそれまでの1か月110台前後から70～90台/月へ低下しています。

同時にCovid-19感染蔓延防止の法令順守により外出を控える人も多くなり、救急車受け入れ件数は2020、2021度は年間1000件を下回っていました。

しかし2022年夏から12月(第6、7波)は1日20万人以上の新規発症と急増したにもかかわらず、逆に救急車受け入れ件数は通年並みに増加しています。長引くCovid-19蔓延による法令順守で外出制限・閉塞感からの反動と、オミクロン株では重症化率が低いなどの理由により人の行動範囲が拡大し、事故や急性期疾患の発症が増加したためだろうと思われます。

そのため2022年度は年間1100件以上になり、2023/05/08のCovid-19感染症が結核などの「2類相

当」から季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられてからは、隔離病棟は介助になり2病棟が一般病棟(98床)として使用できるようになり、120台以上の救急車受け入れ数となる月も多くなり、2023年度は1300件以上に増加しています。

他の高度医療施設においても救急車搬入症例は同様の傾向でしたので、Covid-19の動向、規制法令、人の感染に対する認識により、救急車搬送は大きく影響されていました。インフルエンザ同等の取り扱いになったとはいえ、Covid-19は発熱以前から感染力が強いいため、今後もCovid-19患者はこれまで同様に流行を繰り返すと思います。院内の感染対策はかなり強化されていますが、クラスター発生も防ぎきれず、今後も入院や救急車受け入れができないことがあると思います。

当院では通常の予約外来以外で、救急車やウオークイン救急患者の担当医師は一人しか割り当てできず、複数の救急車の同時受け入れや、また医師の専門性、特に夜間は他施設からの派遣医師一人になるため、当直医の専門性からも、受け入れできないことも多々あり、ご紹介いただく近隣の医療機関や救急隊員の方々におきましては、たいへんご不便をおかけしていますが、なにとぞご理解のほど、お願い申し上げます。

表1 救急車搬入台数・年度別年内変動

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年度	96	85	82	102	91	75	90	83	82	23	86	77	972
2021年度	74	76	70	114	86	96	111	85	80	59	64	61	976
2022年度	79	75	95	79	119	101	108	95	130	90	63	74	1,108
2023年度	87	102	121	113	109	129	121	127	125	104	87	99	1,324

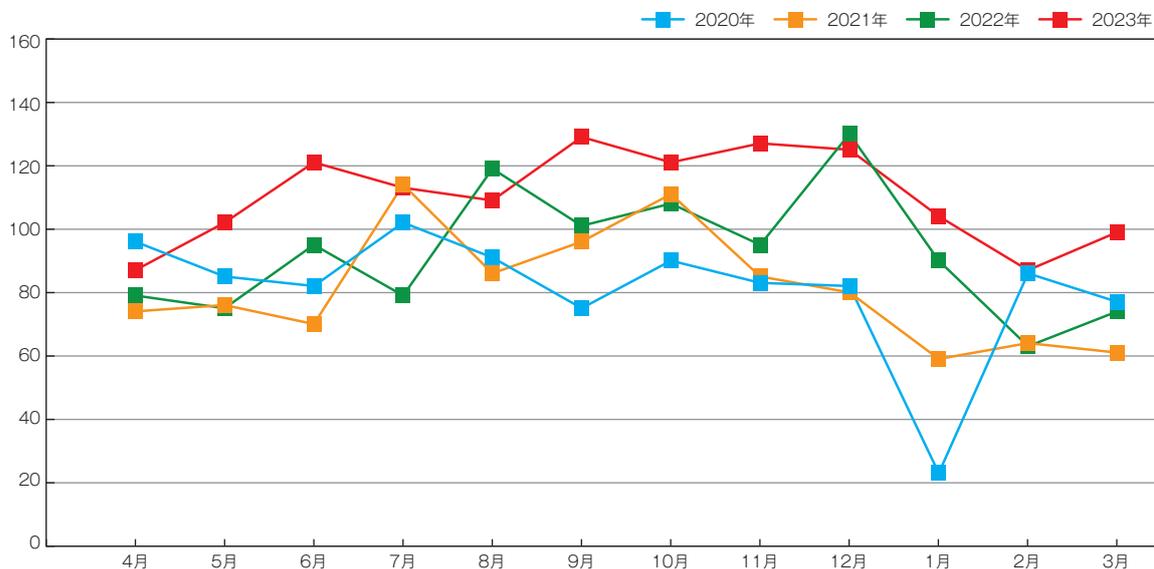
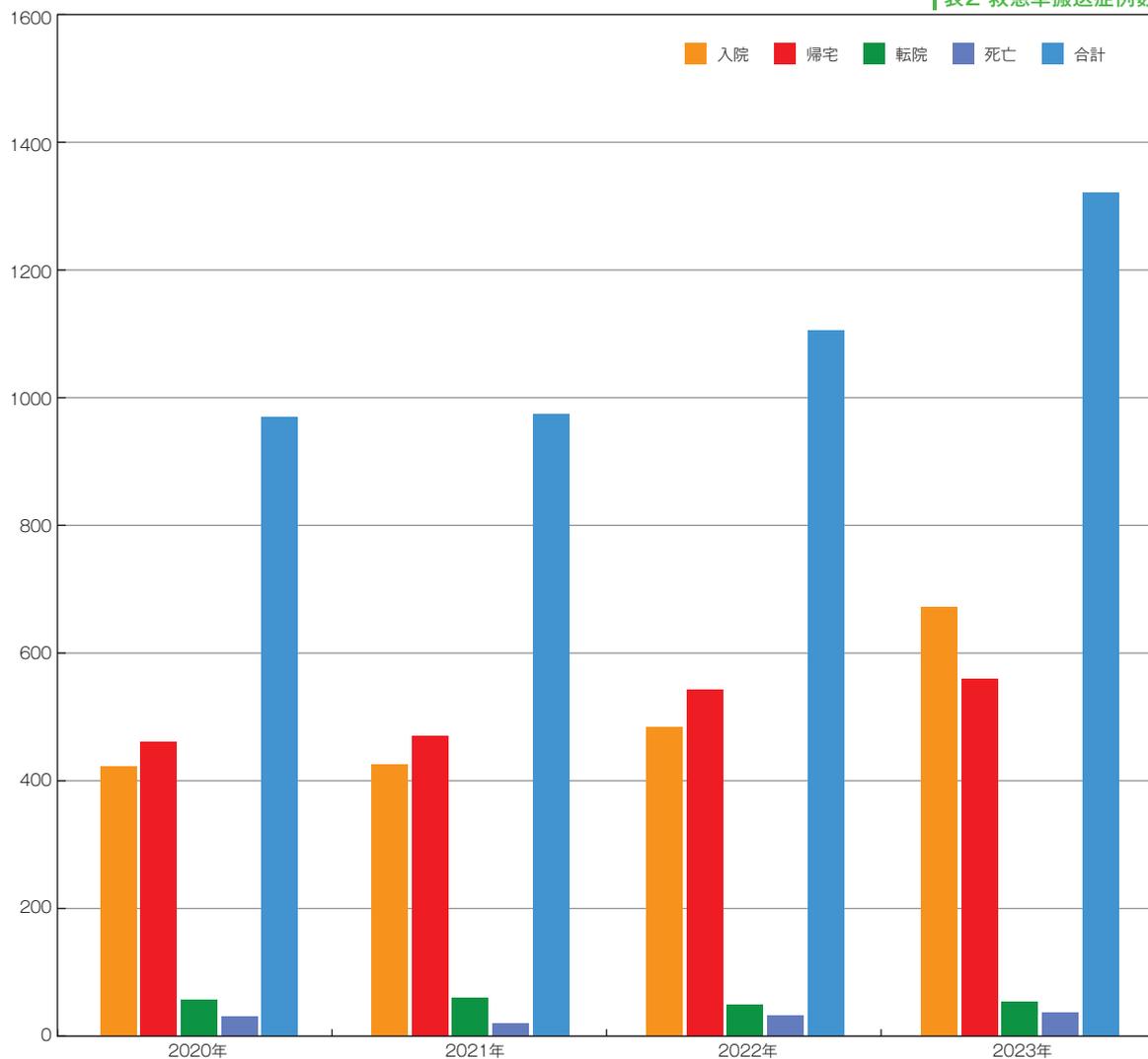


表2 救急車搬送症例数



2 中央診療部門

XXV. 手術センター

手術センター長：大多和 聡

(i) 中央手術室

当センターでは外科、整形外科の手術を行っております。

2018年4月より、麻酔科に牛島 一男先生（前 久留米大学医学部麻酔学講座主任教授）をお迎えし、より充実した体制で業務を行っております。

2023年度の大腿骨近位部骨折症例に対し、受傷から48時間以内に手術を行った件数は109件でした。2022年度より緊急整復固定加算・緊急挿入加算が算定可能となり、早期の手術が可能となるよう体制を整えて参ります。

今後も事故の無いよう緊張感をもって業務に望みたいと思います。

診療科：外科、整形外科、泌尿器科、麻酔科

【診療科別主要手術】

外科：一般外科手術、消化器外科手術、腹腔鏡下手術、呼吸器科手術、VATS
乳腺外科手術、ヘルニア修復術、肛門外科手術

整形外科：骨折手術（骨接合術）、人工関節置換術、関節鏡手術（肩関節・膝関節）、
椎弓形成・切除術、椎弓固定術、回転皮膚弁移植術、四肢切断術

泌尿器科：TUR-B、TUR-P、前立腺生検、膀胱結石碎石術等

スタッフ：外科5名、整形外科5名、泌尿器科1名、麻酔科1名
看護師長1名、看護師5名、看護助手1名

手術室：一般手術室2室、バイオクリーン手術室（class100）1室、回復室を有する。



手術日：月曜日～金曜日（8：00～17：00）時間外緊急はオンコール2名体制にて対応
※土日祝祭日は24時間オンコール1名体制にて対応

看護・教育：コロナ禍のため、看護・教育についてはweb研修への参加を行った。

その他：手術消耗物品、中材消耗物品については適宜価格の見直しを行い、病院経営改善に取り組んだ。

診療科別手術件数	2021年度	2022年度	2023年度
外科	20例	2例	54例
整形外科	228例	250例	289例
その他	0例	0例	0例
合計	248例	252例	343例

麻酔件数	2021年度	2022年度	2023年度
全身麻酔	54例	40例	100例
脊椎麻酔	165例	177例	213例
局所麻酔	29例	34例	30例
その他	0例	0例	0例
合計	248例	251例	343例

(ii) 中央材料室

業務：不潔物回収、洗浄、滅菌、滅菌物補充（SPD対象外の定数物品）滅菌物品の各部署へのサプライ

スタッフ：看護師長1名（手術室兼務） 看護師5名（手術室兼務・第2種滅菌技士2名）
看護助手1名（第2種滅菌技士）

XXVI. 医療安全対策室

医療安全対策室室長：中村 さとみ

(i) 医療安全対策室とは

本院における医療事故を防止し、安心かつ安全な医療を提供する環境づくりのために設置される。専従の医療安全管理者を設置し、組織横断的に病院内の安全管理を担う部門。

(ii) 医療安全管理の基本的考え方

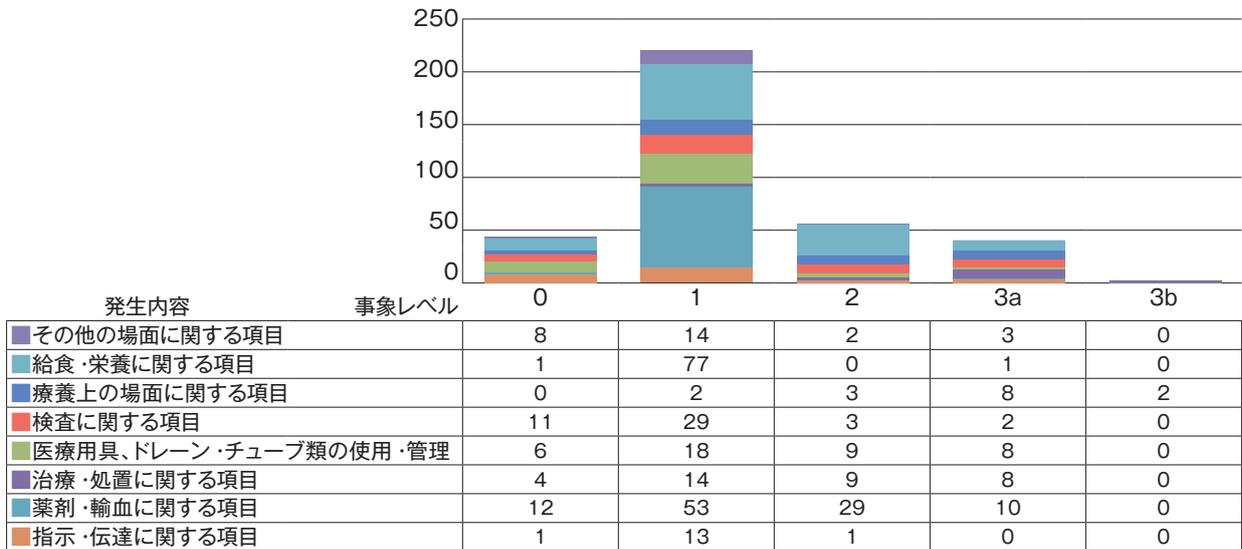
医療現場では、医療従事者のちょっとした不注意が、医療上予期しない状況や、望ましくない事態を引き起こし、患者の健康や生命を損なう結果を招くことがある。われわれ医療従事者には、患者の安全を確保するための不断の努力が求められている。このような考えのもとに、それぞれの医療従事者の個

人レベルでの事故防止対策と、医療施設全体の組織的な事故防止対策の二つの対策を推し進めることによって、医療事故を未然に防ぎ、患者が安心して安全な医療を受けられる環境を整えることを目標とする。

(iii) 医療安全管理活動

- 1) インシデント・アクシデントレポートの収集・分析・評価・フィードバック
- 2) 各部署の現場管理者と連携し、医療事故の原因調査・分析・対策のための支援
- 3) 院内を巡回し、各部門における医療安全対策の状況を確認し、関連部署と連携して必要な業務改善の推進
- 4) 院外の医療安全に関する情報収集を行い、院内の安全対策への活用
- 5) 医療安全マニュアルの点検・修正
- 6) 月1回医療安全対策委員会開催
- 7) 年2回以上院内研修会（全職員対象）
- 8) 患者相談窓口担当として相談への対応
- 9) 療養環境ラウンドによる転倒転落防止対策の強化
- 10) 部署別の5S活動の推進・評価

2023年度 発生内容×事象レベル別 一般インシデント集計表



(iv) 2023年度 患者相談窓口 9件

・接遇に関すること ・面会に関すること ・内服薬調剤に関すること ・退院後、入院中の情報確認に関すること 等

(v) 2023年度医療安全全体研修会内容

第1回 「ヒューマンエラー」「輸液誤投薬について」「セーフテック輸液ポンプ」

第2回 「MRIを安全に使用するためのポイント」「医療ガスに係る安全管理研修」

<その他>

- ・新入職者研修 「医療安全の基本」「事故防止対策マニュアル、転倒転落、与薬・注射、誤認防止」
- ・看護部新人研修 「身体抑制」「セーフマスター・インシデントレポート」「医療機器（センサー）取扱い」

XXVII. 感染対策室

感染対策室室長：森崎 清司

感染対策室は、患者、家族、病院職員そして宇城総合病院に関わる全ての人々を感染から守るために感染管理活動を実践している。看護ケア上の問題や感染予防策の問題について相談役となり、各種サーベイランス、感染予防に関する問題解決に従事し、医療の質の向上にも貢献している。さらに、感染対策向上加算2を取得し国立病院機構熊本南病院やくまもと温石病院、間部病院、光テラス病院との合同カンファレンスに参加し、連携して感染管理を行い

院内の感染対策だけではなく地域の感染予防にも力を入れている。

2023年5月8日からCOVID-19は5類感染症となり感染症法上はインフルエンザと同等の扱いになったが、感染力が落ちたわけではない為、今後もクラスター発生のリスクは変わらない。そのため適切な感染対策を継続しつつ面会制限などは緩和し、患者、家族、病院職員が安心できる環境を作っていく。

(i) 主な業務

- 1) 院内感染防止対策委員会の事務局及び院内感染防止対策小委員会の企画・運営
- 2) ICT(感染制御チーム)の病棟ラウンド・抗菌薬適正使用などの活動
- 3) 感染報告書の集計
- 4) 手術部位感染のデータ集積
- 5) 感染対策の院内外の教育
- 6) 院内感染防止対策マニュアル作成・改定・修正
- 7) 針刺し事故の集計と針刺し事故防止の検討
- 8) 職員の感染症罹患数把握
- 9) 院内外の感染対策についての相談業務
- 10) 施設環境(空調、水道、廃棄物など)管理の把握
- 11) COVID-19患者の入退院調整など

(ii) 2023年度院内研修

開催日	対象者	内容
4月3日・4日	新入職者、看護部新入職者	感染対策の体制、手指衛生など
11月7日～	全職員+近隣施設の希望者	ダニ媒介感染症について Web研修
3月7日～	全職員	今だから知っておきたい結核

(iii) 2023年度院外研修

開催日	対象者、施設	内容
8月30日	益城病院	5類移行後の新型コロナウイルス感染症対策について
10月5日	高齢者施設管理者	高齢者施設による感染対策の徹底、体験談報告等
11月30日	宇城広域連合消防本部隊員	感染症及び感染予防に関する基礎知識
1月17日	益城病院	精神科病院におけるインフルエンザ対策

(iv) 2023年度クラスター介入施設

10月20日	住宅型有料老人ホーム
--------	------------

(v) 2023年 COVID-19 入院患者数 105人

I . 東 3 病棟

医長：毛井 純一
師長：山田 由香

(i) 概 要

回復期リハビリテーション病棟は56床あり、脳血管疾患・脊椎・大腿骨骨折など、急性期病院での治療や手術を経たのちに、リハビリを中心とした治療を行う病棟です。疾患別に90日から180日の入院期間が定められており、その中で院内、院外の多職種連携の下、最大限個人の能力の回復・向上を図り在宅復帰、社会復帰を目指している。

(ii) 対象疾患

脳血管疾患、脊髄損傷等の発症又は術後義肢装着訓練を要するもの。

高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重症の脊髄損傷及び頭部外傷を含む他部外傷。大腿骨、骨盤、脊椎、股関節、膝の神経、筋、靭帯損傷、股関節または膝関節置換術後。

2023年度実績

在宅復帰率	93.1%
入院患者重症度	46.4%
退院患者重症度回復率	85.7%

(iii) 看 護

病床稼働率や施設基準率は前年と変わらぬ実績であった。前期では、患者が集合しての活動や食堂の利用は感染対策上困難であったが、患者の状態に応じたベッドサイドでの離床ができるよう日々の職員配置や協力体制を工夫し離床時間の確保と感染拡大防止に努めた。後期は、感染防止のもと食堂誘導を実施することができ離床促進が図れた。

入院時から退院まで1ヶ月毎の回復期カンファレンスを通し、多職種より患者や家族、外部(包括・

ケアマネジャー・施設等)へ現状を伝えることで、ゴール設定・評価、退院へ向けた情報共有と意向の確認ができ、より円滑な退院支援へと繋げることができた。

2024年度も患者のADL獲得のため病棟内での患者活動の場を作る工夫と、患者の意欲や社会性を引き出しながらADLの改善、向上を目指し退院支援を行いたい。

II . 西 3 病棟

医長：清原 悠太
師長：富永 栄美

(i) 概 要

地域包括ケア病棟は、急性期治療後の患者や在宅・施設療養から緊急入院した患者に対して、在宅や施設復帰のために診療・看護・リハビリで支援する病棟である。入院期間が60日以内と定められたなかで、地域包括ケアシステムによる地域からのニーズに対応でき、患者が安心して住み慣れた環境での生活を送ることができるような体制を構築している。入院患者は、整形外科(保存的療法または手術

後)、外科手術後、一般内科、内分泌系疾患が中心である。特に上下肢骨折術後、脊椎疾患の患者が約半数以上を占め在宅復帰に向けてリハビリを行っている。

2023年度実績

在宅復帰率	87.8%
-------	-------

(ii) 看護

包括ケアパスを使用し、多職種とのカンファレンスや患者情報を共有しながら連携を深め、患者個々に応じた援助を行っている。また、家人やケアマネージャーとのカンファレンスでは、患者のリハビリでの歩行状態や段差昇降の状態を撮影した動画を見てもらいながら、患者の入院前の日常生活動作との比較や退院先の選定、在宅環境調整について協議して退院後も家人や患者に不安の残らないような介入を行っている。

教育については、専門的な知識・技術の習得をめざし、配信講義にて受講を積極的にすすめた。毎月担当を決めてミニ勉強会を実施し、日々の看護ケアに活かしながら看護の質向上を図っていききたい。

今後も多職種で連携を図り、患者の活動性を上げながら、動作能力向上に努め、入院期間内の退院を目指した、退院後も患者や家族が安心して生活できる様な看護介入を行っていききたい。

Ⅲ. 東4病棟

医長：蛭原 賢司
師長：下田 香織

(i) 概要

東4病棟は、整形外科を中心に、循環器内科、代謝内科などの一般内科、一般外科を含む病床数50床（救急専用病床4床、災害時優先病床4床、重症環境病床1床、開放型病床8床を含む）の急性期混合病棟である。救急患者の受け入れを行い、患者の早期治療と並行し臥床による身体・精神機能の廃用予防、急性増悪後の機能回復を図るため多職種でのチーム医療を提供している。

予定入院では、高次医療機関で急性期の治療を終えた後に、リハビリを含めた継続加療が必要な患者の受け入れを行っている。早期に退院支援共同カンファレンスを実施し、患者・家族が望むサービスや退院先の情報を共有することで、入院から退院まで各職種が専門的知見からサポートし、患者個別の状況に応じたチーム医療を提供できる体制を整えている。

2023年度実績

平均在院日数	19.8日
病床稼働率	89.3%

(ii) 看護

2022年度より緊急整復固定加算・緊急挿入加算が算定可能となり、2023年度は受傷から48時間以内に手術を行う件数が大幅に増えた。外来との連携を図り、緊急手術後の患者をスムーズに受け入れる体制を整えることで、周手術期患者の看護へ繋げることが出来た。

また、クリニカルパスを使用することで、患者・家族・医師・看護師・薬剤師・療法士との目標が共有でき、多職種との連携に繋がった。

急性期から回復期、さらには退院に向けた支援が早期に介入出来るよう、日々のカンファレンスやリハビリカンファレンス、退院前カンファレンス開催により共通した認識で、個別に応じた看護を提供するこ

とが出来るようになった。

また、2022年度から新たな取り組みとして始まった心不全チームの活動も2年目となり、今年度は、他職種との連携ツールの1つとして「退院支援シート」を作成した。共有したい情報が一目で分かり、退院に向け動作説明の日程を早期に設定・実施することで、退院後に必要なサービス調整をスムーズに行うことが出来るようになった。症例数はまだ少ないが、増加傾向にある心不全患者に対し、患者・家族に対する教育と支援、サポート体制の強化など多職種チームで介入し、再入院予防へと繋がる活動が出来よう取り組んでいきたい。

IV. 西 4 病棟

医長：平原 智雄
看護師長代行：矢野 裕之

(i) 概 要

西4病棟は、2020年度から新型コロナウイルス感染症(以下:COVID-19)の入院専用病棟(重点医療機関)となり、軽症から中等症の入院患者を受け入れ、重症化患者の救急転送などの対応を担って

いた。2023年度にCOVID-19が5類感染症となり、それに伴い感染病床を有する病床数48床(うち感染病床4床)の整形外科を除く急性期一般病棟(内科・外科)となった。

(ii) 看 護

外科回診(週2回)やカンファレンスなどを通して多職種と連携を図り、チーム医療を意識して日々の業務に従事した。

COVID-19の対応に関しては当院の感染対策室の指示のもと、国の基準に沿った病棟内のゾーニングや个人防护具(以下:PPE)の見直しを行った。

COVID-19専用病床から整形外科を除く急性

期一般病棟(内科・外科)の病棟編成に合わせてマニュアルの見直しを行った。また、病棟編成後にはスタッフの希望に合わせて勉強会を開催し、専門的な知識・技術の習得を図った。

今後、病棟編成後に表出した問題点の解決のために、新たな体制作りや業務の見直しを行うとともにスタッフのストレスの軽減に努めていきたい。

V. 外来

医長：宮村 信博
師長：飯田 美千代

(i) 診療科

内科、循環器内科、糖尿病内科、内分泌・代謝内科、脳神経内科、腎臓内科、人工透析内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、整形外科、リウマチ科、泌尿器科、放射線科、リハビリテーション科、麻酔科

(ii) 概 要

外来受診の1日平均患者数182.2名、新患率23.5%、再来率76.5%、紹介率81.0%、逆紹介率92.4%である。救急車受け入れ台数は年間1,324台である。地域の二次救急、災害拠点病院、第二種感染症指定医療機関、地域医療拠点病院としての役割を担っている。

①検査	内視鏡関連検査数は、年間1,455件、その他超音波・放射検査等は2,433件行っている。検査だけでなく、胃瘻患者の造設後のケア充実を図るために、隔週月曜日にPEG交換を行っている。
②発熱外来	2023年5月8日からCOVID-19は5類感染症に移行している。発熱外来受診、診療も継続しており、患者が安心して医療・看護の提供が受けられるように努めた。プレハブ設置で発熱患者及び家族の待機場所として利用し、より感染対策の強化に日々取り組んだ。
③訪問看護事業所(みなし指定事業所)	2023年3月より訪問看護事業所(みなし指定事業所)を設置し運用が開始となった。入院から退院時カンファレンスに介入し、医師、看護師、MSW、ケアマネジャー、居宅サービス事業者との密接な連携を図り利用者の状態に応じて看護の提供を目指し支援に努めた。

訪問看護介入実績 : 医療介入 1件 介護介入 2件

地域包括ケアシステムの時代となり、在宅復帰率が高くなり、在宅療養支援により患者の生活を支える医療・看護の提供が始まっている。外来看護師には、地域で暮らす患者を生活者としてとらえ患者に寄り添うことが必要であり、外来受診を生活の一部としてとらえ継続的な治療が実現できるよう支援していく役割がある。患者の情報をケアにつなげ、多職種と連携を図っている。患者が日常生活のリズムを壊すことなく、日常生活を維持できるようにかかわる看護、患者が必要なときに安心して医療が受けられるよう、安全な医療・外来看護の実践に努めていく

いと考えている。また、訪問看護事業所(みなし指定事業所)の運用が開始となり、患者の心身の特性をふまえて、全体的な日常生活動作の維持、回復を図るとともに、生活の質の確保を重視した在宅療養が継続できるよう支援に努めていく。

また、この1年間COVID-19が5類感染症となり学会や勉強会の開催が増えつつあるが、Web研修会も多く開催されている。専門知識向上のために学会や勉強会、各自Web研修会等を活用し積極的に自己研鑽にも努めた。

健診センター：吉田 定信

VI. 健診センター

(i) 健診センター概要

平成21年4月健診センター設立

1)業務

- 健康診査 ● 保健指導 ● 健康診査結果の登録、報告、管理 ● 健診業務の営業
- 健康に関する市民への啓蒙活動

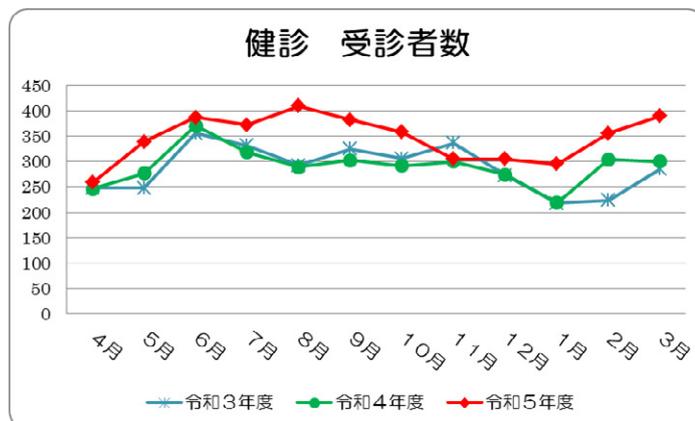
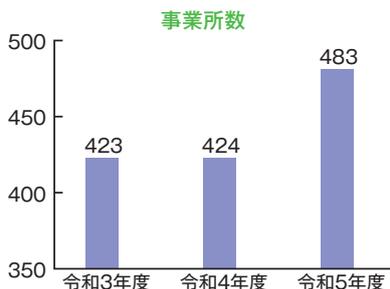
2)健診メニュー

事業所健診、雇入時健診、協会けんぽ生活習慣病予防健診、特定健診、後期高齢者健診、宇城市生活習慣病健診、宇城市ハイリスク事業、宇城市乳がん検診、宇城市ピロリ菌抗体検査、熊本県風疹抗体検査、熊本県ウイルス性肝炎検査、厚生労働省風疹抗体検査 他

3)健診

月～金曜 午前

(ii) 健診センター実績



VII. 看護部教育・研修の実施

看護部長：南 和代

「私たちは患者さんの一番そばにいます」を看護部の理念とし、専門職として質の高い看護サービスの提供ができる人材育成を目指した。

2023年度は新入職看護師15名をむかえ、入職後

4日間の集合教育を行い、月1回の定期的な研修等を実施した。看護部教育研修は、アフターコロナへの転換に伴い参集形式を再開実施した。

(i) 各種認定看護師の育成

- | | | | |
|-----------------|----|------------|------|
| ●皮膚・排泄ケア認定看護師 | 1名 | ●救急看護認定看護師 | 1名 |
| ●感染管理認定看護師 | 1名 | | 合計3名 |
| ●認定看護管理者研修受講の推進 | | | |

(ii) 看護師のスキルアップを目指した各種研修への参加推進

看護師一人一人の知識・能力の向上を目指した院外研修は、臨床指導者養成、災害支援ナース、看護必要度、認知症などに積極的に参加し、自己啓発の強化に努めることができた。

(iii) 目標管理の推進・適正評価

クリニカルラダーと等級制目標管理に取り組んでいる。
部署目標については、部署別目標管理表を作成し月別・グループ別評価を行い目標達成に努めた。

(iv) 看護部各委員会の活動

委員会で業務改善や教育プログラムの再構築、看護手順基準の定期的見直し、看護記録マニュアルの再編などを行うことにより看護の質を担保・向上させ、安全でやさしい看護の提供を目指した。

(v) eラーニング学習

看護師卒後研修の一環としてeラーニングで著名な講師による最新の幅広い講義を看護部一人一人が任意で受講できる学研ナーシングサポートシステムを導入し、看護部の院内研修の充実を図った。受講状況の個人別確認を行いデータ化して、達成度の指標とした。

(vi) 看護学生実習指導者の育成（実習指導者養成講座の受講）

看護学生実習指導者養成講座の受講者を中心に看護学生の受け入れ体制・指導要綱の整備を行い、体系化された実習指導カリキュラムに沿った実習が受けられるような臨床実習環境の整備に努めた。

2023年度看護部研修実績

	新人研修	看護部研修	看護補助者研修
4月	採血と輸液管理、看護必要度、看護記録、医療安全、感染対策、救急関連、部署実習(外来・透析・手術室)	看護部理念、事業方針	看護部理念、事業方針
5月	輸液管理		
6月			
7月	看護記録	片頭痛が日常生活に及ぼす影響	感染予防 ～手指衛生・標準予防策など～
8月	看護必要度	救急看護	排泄のお世話 ～排尿・排便のお世話、おむつ交換など～
9月	清潔操作	死を迎える患者家族への援助	
10月	中心静脈		口腔ケア
11月	リフレッシュ研修	看護記録	
12月	シナリオ研修	急変時の対応	
1月	BLS		
2月	シナリオ研修	転倒・転落対策セミナー	入浴のお世話
3月		プリセプター研修	
通年	看護協会研修 整形外科勉強会 ME機器勉強会 BLS 学研ナーシングeラーニング 院外研修		

I. 入院患者数（病床利用率と平均在院日数）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
病床数		204	204	204	204	204	204	204	204	204	204	204	204		
在院患者数	総数	4,597	4,880	5,275	5,676	5,475	5,115	5,192	5,387	5,926	6,098	5,564	5,894	65,079	5,423.3
	一般病棟	1,448	1,738	2,165	2,432	2,361	2,073	2,150	2,399	2,666	2,837	2,525	2,635	27,429	2,285.8
	地域包括ケア	1,475	1,430	1,465	1,523	1,434	1,445	1,486	1,426	1,541	1,535	1,427	1,529	17,716	1,476.3
	回復期	1,674	1,712	1,645	1,721	1,680	1,597	1,556	1,562	1,719	1,726	1,612	1,730	19,934	1,661.2
新入院患者数	総数	128	139	159	157	161	153	151	167	167	161	147	161	1,851	154.3
	一般病棟	94	109	130	135	136	128	122	138	142	142	130	140	1,546	128.8
	地域包括ケア	23	18	18	16	21	17	21	21	18	16	17	17	223	18.6
	回復期	11	12	11	6	4	8	8	8	7	3	0	4	82	6.8
退院患者数	総数	128	136	138	156	161	172	144	149	169	158	150	159	1,820	151.7
	一般病棟	53	69	81	93	96	103	74	87	93	90	78	91	1,008	84.0
	地域包括ケア	50	41	32	40	40	37	40	37	42	38	44	41	482	40.2
	回復期	25	26	25	23	25	32	30	25	34	30	28	27	330	27.5
病床利用率(%)	総数	75.1	77.2	86.2	89.8	86.6	83.6	82.1	88.0	93.7	96.4	94.1	93.2		87.2
	一般病棟	49.3	57.2	73.6	80.1	77.7	70.5	70.8	81.6	87.8	93.4	88.8	86.7		76.5
	地域包括ケア	98.3	92.3	97.7	98.3	92.5	96.3	95.9	95.1	99.4	99.0	98.4	98.6		96.8
	回復期	99.6	98.6	97.9	99.1	96.8	95.1	89.6	93.0	99.0	99.4	99.3	99.7		97.3
平均在院日数	総数	27.7	30.1	28.8	29.8	27.4	25.7	28.5	27.9	27.8	29.9	27.5	28.3		28.3
	一般病棟	16.1	17.2	17.8	18.9	17.2	15.9	18.6	18.9	19.4	20.8	19.4	19.0		18.4
	地域包括ケア	28.7	37.7	40.2	38.1	34.6	39.3	37.7	36.3	37.4	39.6	33.0	36.3		36.3
	回復期	68.4	69.9	63.5	74.4	70.0	49.8	55.2	59.0	49.2	58.6	55.6	63.0		60.5

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
西4病棟	在院患者数	0	476	868	948	1,010	843	966	1,096	1,218	1,323	1,166	1,173	11,087	923.9
	入院	0	45	54	64	69	62	65	69	69	80	65	62	704	58.7
	退院	0	21	39	53	49	52	44	48	58	55	50	51	520	43.3
東4病棟	在院患者数	1,448	1,262	1,297	1,484	1,351	1,230	1,184	1,303	1,448	1,514	1,359	1,462	16,342	1,361.8
	入院	94	64	76	71	67	66	57	69	73	62	65	78	842	70.2
	退院	53	48	42	40	47	51	30	39	35	35	28	40	488	40.7
東3病棟	在院患者数	1,674	1,712	1,645	1,721	1,680	1,597	1,556	1,562	1,719	1,726	1,612	1,730	19,934	1,661.2
	入院	11	12	11	6	4	8	8	8	7	3	0	4	82	6.8
	退院	25	26	25	23	25	32	30	25	34	30	28	27	330	27.5
西3病棟	在院患者数	1,475	1,430	1,465	1,523	1,434	1,445	1,486	1,426	1,541	1,535	1,427	1,529	17,716	1,476.3
	入院	23	18	18	16	21	17	21	21	18	16	17	17	223	18.6
	退院	50	41	32	40	40	37	40	37	42	38	44	41	482	40.2
合計	在院患者数	4,597	4,880	5,275	5,676	5,475	5,115	5,192	5,387	5,926	6,098	5,564	5,894	65,079	5,423.3
	入院	128	139	159	157	161	153	151	167	167	161	147	161	1,851	154.3
	退院	128	136	138	156	161	172	144	149	169	158	150	159	1,820	151.7
	1日平均数	153	157	176	183	177	171	167	180	191	197	192	190		177.8

II. 科別入院患者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
内科	在院患者数	67	94	158	219	294	308	178	231	308	304	203	199	2,563	213.6
	入院	7	6	9	11	13	10	3	10	14	12	2	12	109	9.1
	退院	4	4	4	8	9	13	7	9	11	13	7	7	96	8.0
循環器内科	在院患者数	235	301	410	317	343	299	268	214	218	245	285	319	3,454	287.8
	入院	16	14	21	13	12	15	13	8	15	8	14	16	165	13.8
	退院	15	16	18	14	19	18	14	12	12	8	12	16	174	14.5
糖尿病内科	在院患者数	237	349	417	350	319	287	261	249	201	132	239	253	3,294	274.5
	入院	10	13	12	7	11	7	7	10	4	9	9	7	106	8.8
	退院	11	10	10	13	11	11	10	8	9	9	5	7	114	9.5
腎臓内科	在院患者数	140	155	131	173	239	212	114	160	179	237	121	101	1,962	163.5
	入院	6	4	5	9	7	2	2	5	3	10	2	4	59	4.9
	退院	7	5	4	8	7	9	3	4	3	11	4	5	70	5.8
脳神経内科	在院患者数	946	1,168	1,102	1,053	935	988	1,026	1,052	845	1,007	940	1,112	12,174	1014.5
	入院	17	18	16	10	15	22	19	16	12	20	24	20	209	17.4
	退院	16	18	17	17	19	24	16	20	17	19	22	11	216	18.0
人工透析内科	在院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.1
	退院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
透析	在院患者数	3	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	8	0.7
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	退院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
外科	在院患者数	126	264	431	427	435	372	331	377	295	240	313	328	3,939	328.3
	入院	11	24	35	41	39	41	32	33	26	23	25	28	358	29.8
	退院	9	13	33	39	31	37	26	24	31	14	21	27	305	25.4
消化器外科	在院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	退院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
整形外科	在院患者数	2,661	2,332	2,426	2,854	2,633	2,465	2,870	3,018	3,780	3,796	3,360	3,475	35,670	2972.5
	入院	52	56	56	55	55	50	71	78	87	69	65	68	762	63.5
	退院	59	63	45	49	55	53	61	66	81	78	70	81	761	63.4
心臓血管外科	在院患者数	178	204	184	239	174	153	121	86	100	132	103	106	1,780	148.3
	入院	8	4	3	9	7	4	4	7	6	10	6	5	73	6.1
	退院	7	5	7	7	8	6	6	6	5	6	9	5	77	6.4
泌尿器科	在院患者数	4	13	16	43	103	31	23	0	0	0	0	1	234	19.5
	入院	1	0	2	1	2	2	0	0	0	0	0	0	8	0.7
	退院	0	2	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	7	0.6
放射線科	在院患者数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
	入院	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
	退院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
合計	在院患者数	4,597	4,880	5,275	5,676	5,475	5,115	5,192	5,387	5,926	6,098	5,564	5,894	65,079	5423.3
	入院	128	139	159	157	161	153	151	167	167	161	147	161	1,851	154.3
	退院	128	136	138	156	161	172	144	149	169	158	150	159	1,820	151.7
	1日平均数	153	157	176	183	177	171	167	180	191	197	192	190		177.8

※退院数には死亡患者が含まれております。 ※入院数・退院数には転入・転出の数は含んでありません。 ※在院数に退院(死亡・退院)は含まれません。

Ⅲ .ICD-10 大分類による年齢別・性別統計（退院患者）

	性別	～10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代～	合計
感染症及び寄生虫症	男	0	1	2	0	2	1	4	7	3	20
	女	0	1	0	0	3	1	5	5	7	22
新生物	男	0	0	0	1	3	5	6	7	0	22
	女	0	0	0	0	1	2	4	8	7	22
血液および造血系の疾患ならびに免疫機構の障害	男	0	0	0	0	0	0	1	1	3	5
	女	0	0	1	0	0	0	0	3	6	10
内分泌、栄養および代謝疾患	男	0	0	1	1	3	7	4	3	3	22
	女	0	1	0	2	0	0	5	11	5	24
精神および行動の障害	男	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
	女	0	2	0	1	0	0	1	1	0	5
神経系の疾患	男	0	0	0	3	3	6	3	6	2	23
	女	0	0	0	0	1	1	6	7	1	16
眼および付属器の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳および乳様突起の疾患	男	0	0	0	1	2	3	3	0	1	10
	女	0	1	0	0	3	6	7	12	1	30
循環器系の疾患	男	0	0	1	3	7	17	32	37	19	116
	女	0	0	0	1	2	3	20	50	47	123
呼吸器系の疾患	男	0	0	0	0	1	6	20	40	22	89
	女	0	0	0	0	1	1	9	32	36	79
消化器系の疾患	男	1	1	1	9	18	21	23	28	5	107
	女	0	0	1	5	6	9	15	25	14	75
皮膚および皮下組織の疾患	男	0	1	0	0	0	8	4	7	3	23
	女	0	0	0	0	0	0	2	6	11	19
筋骨格系および結合組織の疾患	男	0	1	1	0	4	3	19	21	4	53
	女	0	1	0	3	6	6	9	26	20	71
腎尿路生殖器系の疾患	男	0	0	0	1	1	5	10	13	4	34
	女	0	0	0	0	0	3	8	12	8	31
妊娠、分娩および産褥	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
周産期に生じた病態	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
先天奇形、変形および染色体異常	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
損傷、中毒およびその他の外因の影響	男	5	13	3	9	21	35	50	61	28	225
	女	1	3	4	7	15	28	70	167	160	455
傷病および死因の外因	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	男	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特殊目的用コード	男	0	0	0	3	3	5	13	13	6	43
	女	1	0	2	0	1	3	4	21	10	42
合計	男	6	17	9	31	68	125	193	244	103	796
	女	2	9	8	19	39	63	165	386	333	1,024

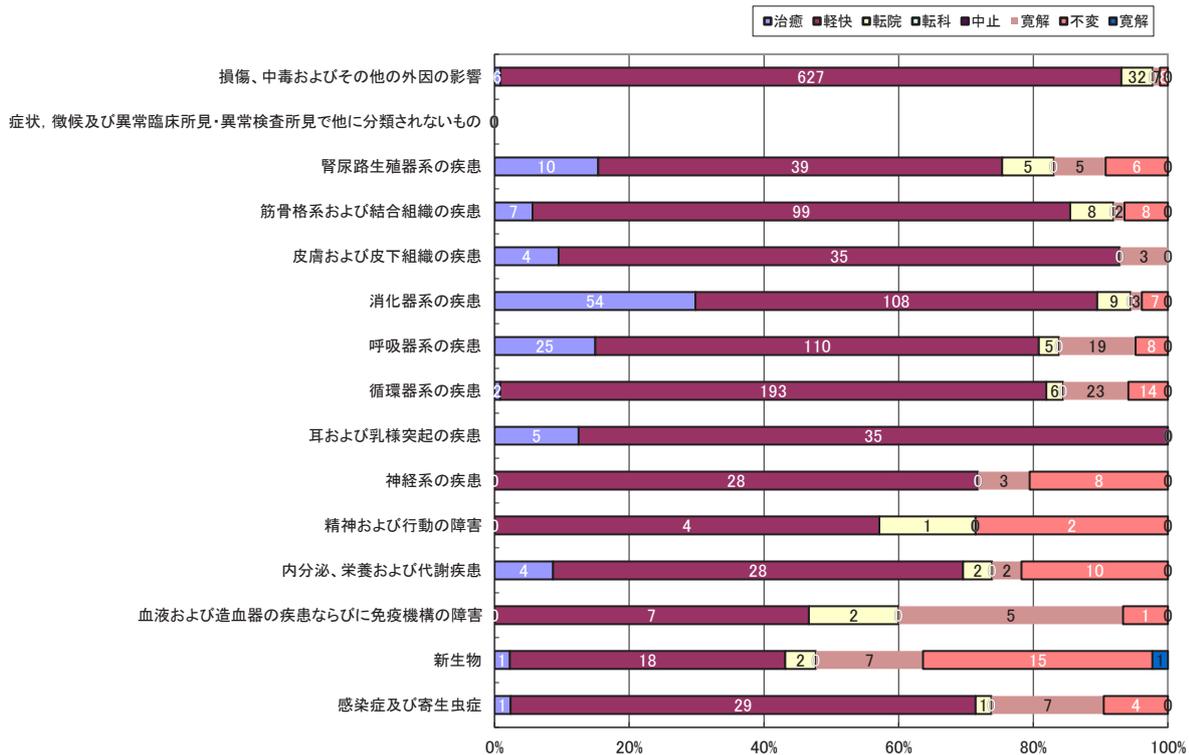
※1患者の1入院につき主病名が2以上ある場合は患者数は主病名の数とする。

IV. ICD-10大分類による入院日数期間統計（退院患者）

	~7	~14	~30	~60	~90	~120	~150	~180	平均入院日数	計
感染症及び寄生虫症	15	10	10	4	1	2	0	0	20.0	42
新生物	14	7	14	7	2	0	0	0	19.2	44
血液および造血管の疾患ならびに免疫機構の障害	4	2	3	5	1	0	0	0	25.8	15
内分泌、栄養および代謝疾患	12	7	13	10	2	2	0	0	26.2	46
精神および行動の障害	4	1	0	1	1	0	0	0	20.7	7
神経系の疾患	10	5	6	8	4	1	4	1	43.1	39
眼および付属器の疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳および乳様突起の疾患	31	6	2	1	0	0	0	0	6.2	40
循環器系の疾患	23	21	54	59	29	22	26	5	53.6	239
呼吸器系の疾患	19	34	72	27	10	4	1	1	27.1	168
消化器系の疾患	90	44	24	22	1	1	0	0	13.7	182
皮膚および皮下組織の疾患	6	11	12	7	3	1	1	1	32.9	42
筋骨格系および結合組織の疾患	14	23	27	46	10	3	0	1	33.9	124
腎尿路生殖器系の疾患	13	21	20	7	2	2	0	0	20.9	65
先天奇形、変形および染色体異常	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
損傷、中毒およびその他の外因の影響	70	46	90	260	164	37	9	4	48.0	680
健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	0	0	2	0	0	0	0	0	23.5	2
特殊目的用コード	28	33	18	4	1	1	0	0	13.8	85
合計	353	271	367	468	231	76	41	13	36.3	1,820

4 診療データ

V. 疾病分類転帰別比率



VI. 科別外来患者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
内科	新患者数	17	31	38	43	20	36	20	25	17	48	22	23	340	28.3
	再診患者数	13	15	20	25	37	39	21	23	13	27	36	34	303	25.3
循環器内科	新患者数	21	24	23	26	25	9	18	16	12	16	10	13	213	17.8
	再診患者数	222	228	197	240	238	199	222	224	205	225	210	215	2,625	218.8
糖尿病内科	新患者数	11	14	21	13	39	9	16	9	12	10	13	14	181	15.1
	再診患者数	433	398	440	432	475	434	446	472	426	459	414	428	5,257	438.1
腎臓内科	新患者数	9	8	13	12	7	16	7	3	4	9	8	4	100	8.3
	再診患者数	39	38	46	45	49	43	38	43	44	44	37	44	510	42.5
脳神経内科	新患者数	22	26	19	27	38	20	21	23	13	28	25	15	277	23.1
	再診患者数	131	140	132	165	171	153	184	164	169	138	157	132	1,836	153.0
人工透析内科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	再診患者数	47	60	48	49	55	43	54	40	45	44	41	42	568	47.3
透析	新患者数	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0.2
	再診患者数	837	926	884	880	877	867	893	891	878	889	808	865	10,495	874.6
	内導入患者(転院患者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	(0)
外科	新患者数	44	61	111	121	126	87	84	62	80	78	59	65	978	81.5
	再診患者数	96	103	169	199	215	200	170	155	153	158	146	152	1,916	159.7
消化器外科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	再診患者数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	0.2
整形外科	新患者数	104	118	117	102	153	104	132	92	91	100	66	122	1,301	108.4
	再診患者数	782	833	911	793	938	733	854	813	766	743	725	793	9,684	807.0
心臓血管外科	新患者数	9	1	24	11	24	8	5	7	5	10	2	4	110	9.2
	再診患者数	15	7	7	24	20	4	10	2	5	17	6	4	121	10.1
泌尿器科	新患者数	5	1	2	3	3	1	2	1	1	4	1	3	27	2.3
	再診患者数	34	30	37	22	37	29	33	22	35	23	36	26	364	30.3
リハビリテーション科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	再診患者数	11	18	15	8	7	14	14	15	7	9	9	13	140	11.7
放射線科	新患者数	58	74	94	69	71	81	82	84	77	73	83	73	919	76.6
	再診患者数	3	5	8	4	8	4	7	6	7	3	5	5	65	5.4
健診センター	新患者数	259	339	387	372	410	729	358	305	305	295	356	533	4,648	387.3
	再診患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
予防接種	新患者数	7	4	4	20	3	3	3	1	1	21	22	1	90	7.5
	再診患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
インフルエンザ	新患者数	0	0	0	0	0	0	1	538	24	2	0	0	565	47.1
	再診患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
コロナワクチン	新患者数	0	0	163	166	0	0	167	144	5	0	0	0	645	53.8
	再診患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
合計	新患者数	566	702	1,016	985	919	1,103	917	1,310	647	694	667	870	10,396	866.3
	再診患者数	2,663	2,801	2,914	2,886	3,128	2,762	2,946	2,870	2,753	2,779	2,631	2,753	33,886	2,823.8
	合計	3,229	3,503	3,930	3,871	4,047	3,865	3,863	4,180	3,400	3,473	3,298	3,623	44,282	3,690.2
	1日平均数	161	175	179	194	184	193	184	209	170	183	174	181		182.2

VII. 紹介・逆紹介件数（率）

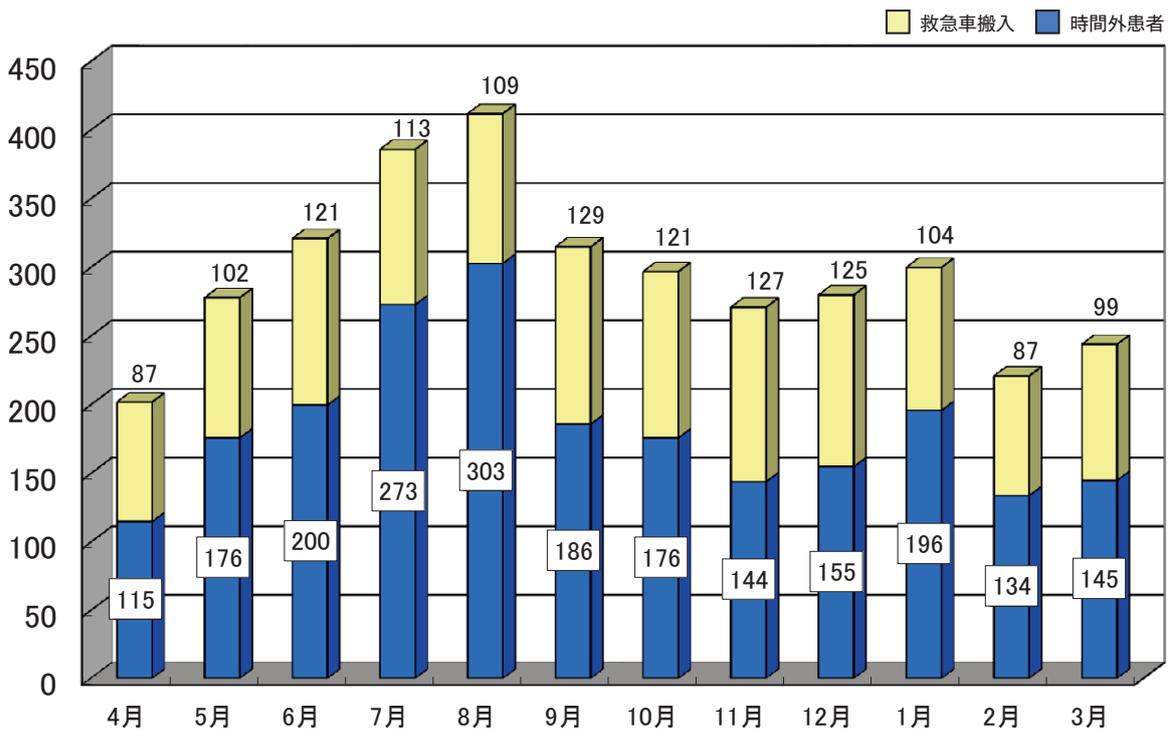
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	対前年比
紹介件数	215	230	281	238	259	242	259	222	213	249	234	259	2,901	105.1%
紹介率	87.0%	83.3%	74.7%	76.8%	63.5%	84.3%	83.5%	88.8%	85.5%	83.8%	88.0%	84.4%	81.0%	112.5%
逆紹介件数	239	249	296	265	277	287	304	285	261	287	270	292	3,312	101.9%
逆紹介率	96.8%	90.2%	78.7%	85.5%	67.9%	100.0%	98.1%	114.0%	104.8%	96.6%	101.5%	95.1%	92.4%	109.0%

VIII. 診療科別紹介件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	2022	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	5
	2023	5	4	11	10	6	4	3	1	3	4	2	6	59
循環器内科	2022	16	17	22	16	17	14	14	18	17	10	19	12	192
	2023	15	18	18	13	17	10	17	9	14	14	13	14	172
糖尿病内科	2022	9	20	15	21	8	10	12	13	14	10	10	14	156
	2023	10	12	13	10	13	9	15	11	5	10	10	10	128
腎臓内科	2022	6	4	10	4	6	9	5	5	4	3	6	6	68
	2023	5	3	10	8	5	10	3	5	4	4	5	4	66
脳神経内科	2022	15	16	23	18	24	21	17	25	18	20	24	23	244
	2023	19	22	17	19	29	23	23	19	17	33	25	22	268
人工透析内科	2022	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2023	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
透析	2022	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
	2023	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
外科	2022	6	13	19	24	11	21	22	21	12	5	8	18	180
	2023	17	23	38	44	36	33	29	25	26	28	27	33	359
消化器外科	2022	17	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27
	2023	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	2022	91	97	88	60	65	73	63	82	74	75	86	87	941
	2023	76	73	75	61	72	68	81	66	59	77	63	88	859
心臓血管外科	2022	0	5	6	2	1	10	3	2	7	2	6	1	45
	2023	6	2	2	3	4	4	2	1	7	5	3	4	43
泌尿器科	2022	0	3	1	2	1	4	2	0	2	4	3	5	27
	2023	4	1	3	1	4	0	1	0	1	1	1	3	20
リハビリテーション科	2022	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2023	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	2022	79	88	103	80	66	66	66	76	51	62	67	70	874
	2023	58	71	94	69	73	81	84	85	77	73	85	75	925
合計	2022	241	273	287	227	199	228	205	243	199	193	230	236	2,761
	2023	215	230	281	238	259	242	259	222	213	249	234	259	2,901

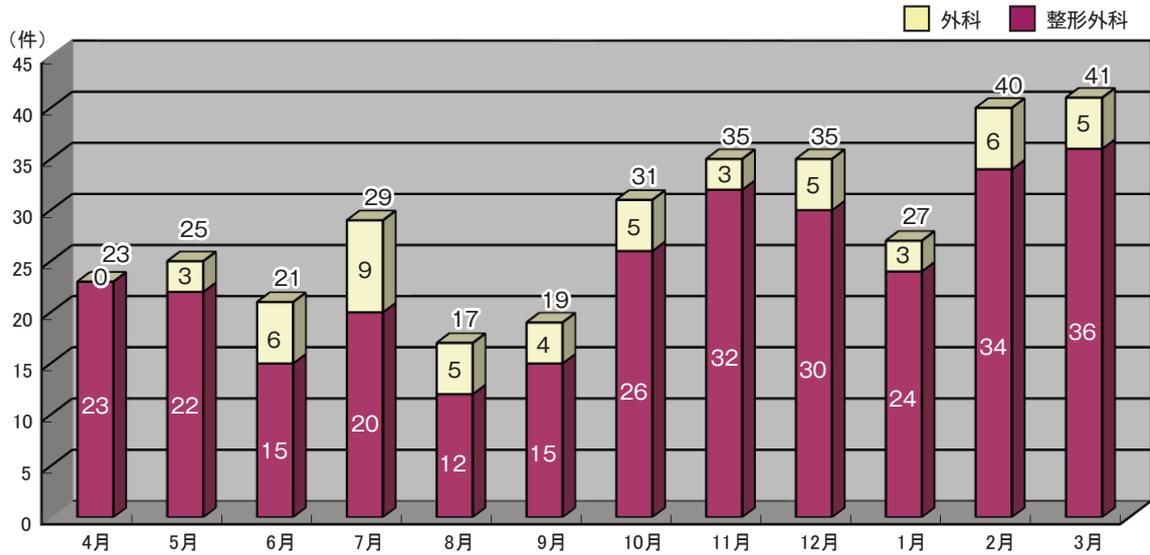
IX. 救急患者推移

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急車搬入	入院	35	46	52	63	47	71	62	72	69	46	55	55	673
	外来	52	56	69	50	62	58	59	55	56	58	32	44	651
	小計	87	102	121	113	109	129	121	127	125	104	87	99	1,324
時間外患者	入院	13	28	22	22	23	18	18	15	23	34	18	24	258
	外来	102	148	178	251	280	168	158	129	132	162	116	121	1,945
	小計	115	176	200	273	303	186	176	144	155	196	134	145	2,203
合計	入院	48	74	74	85	70	89	80	87	92	80	73	79	931
	外来	154	204	247	301	342	226	217	184	188	220	148	165	2,596
総合計		202	278	321	386	412	315	297	271	280	300	221	244	3,527



X. 手術件数の推移と内訳

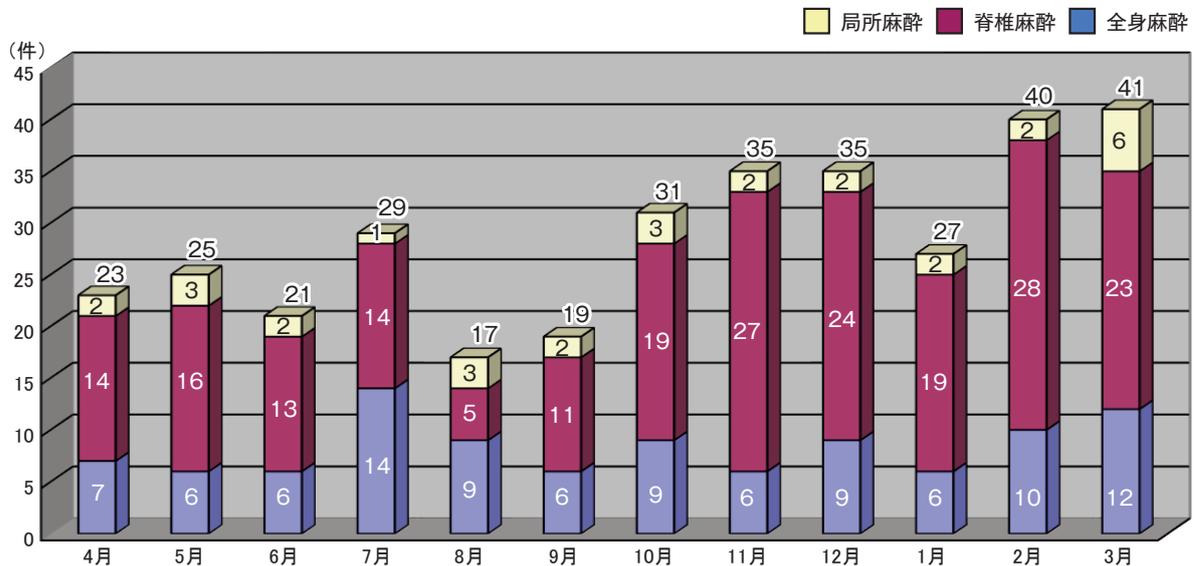
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形外科	23	22	15	20	12	15	26	32	30	24	34	36	289
外科	0	3	6	9	5	4	5	3	5	3	6	5	54
合計	23	25	21	29	17	19	31	35	35	27	40	41	343



4 診療データ

XI. 麻酔件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
全身麻酔	7	6	6	14	9	6	9	6	9	6	10	12	100
脊椎麻酔	14	16	13	14	5	11	19	27	24	19	28	23	213
局所麻酔	2	3	2	1	3	2	3	2	2	2	2	6	30
合計	23	25	21	29	17	19	31	35	35	27	40	41	343



XII . 内視鏡検査

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
E F-胃・十二指腸	76	104	127	110	111	105	109	100	101	108	94	96	1,241	103.4
E F-大腸(S状結腸)	1	2	1	10	1	3	0	1	3	0	2	4	28	2.3
E F-大腸(上行結腸及び盲腸)	2	2	4	2	1	5	5	4	2	2	4	7	40	3.3
E F-大腸(下行結腸及び横行結腸)	4	5	8	10	6	11	8	6	9	3	2	11	83	6.9
E F-膀胱尿道	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3	0.3
E F-気管支	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
胃瘻カテーテル交換法	4	2	8	2	5	0	1	4	6	3	4	1	40	3.3

XIII . 内視鏡下手術

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内視鏡的消化管止血術	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術 (その他のポリープ・粘膜切除術)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
内視鏡的十二指腸ポリープ・粘膜切除術 (その他のポリープ・粘膜切除術)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内視鏡的胆道碎石術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内視鏡的乳頭切開術 (乳頭括約筋切開のもの)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内視鏡的乳頭切開術 (胆道碎石術を伴う)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内視鏡的結腸ポリープ切除術	0	0	0	4	2	4	1	4	1	0	1	1	18
内視鏡的大腸ポリープ切除術	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
内視鏡的食道及び胃内異物摘出術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内視鏡的結腸粘膜切除術(他)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内視鏡的食道下部異物摘出術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内視鏡的胆道ステント留置術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

XV. リハビリテーション部

(i) 入院

2023年度 年間対象患者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (名)
PT	脳血管I	49	53	52	46	44	48	42	47	47	48	52	61	589
	廃用症候群I	31	33	51	52	55	57	48	51	48	46	40	37	549
	運動器I	128	125	125	134	127	123	140	148	179	170	156	153	1,708
	心大血管I	7	12	10	10	14	8	7	9	6	3	4	9	99
	合計	215	223	238	242	240	236	237	255	280	267	252	260	2,945
OT	脳血管I	49	51	50	43	43	47	43	48	50	50	51	55	580
	廃用症候群I	10	5	8	10	11	9	8	6	3	2	5	6	83
	運動器I	82	81	74	75	80	85	87	97	107	97	98	76	1,039
	合計	141	137	132	128	134	141	138	151	160	149	154	137	1,702
ST	脳血管I	44	48	45	38	37	41	40	44	46	42	43	48	516
	廃用症候群I	20	17	20	24	23	23	20	19	17	22	15	13	233
	合計	64	65	65	62	60	64	60	63	63	64	58	61	749

(ii) 外来

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (名)
PT	脳血管I	2	3	3	4	2	4	6	4	4	5	3	3	43
	運動器I	40	36	45	47	48	39	33	40	50	41	37	44	500
OT	脳血管I	0	2	2	1	2	2	1	2	2	1	1	1	17
	運動器I	5	8	13	13	12	10	7	6	8	8	5	5	100
ST	脳血管I	11	13	12	16	21	12	22	23	25	22	26	24	227
合計		58	62	120	81	85	67	69	75	89	77	72	77	932

(iii) 自宅訪問件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (件)
退院前自宅訪問	6	7	4	3	6	9	3	3	6	8	5	14	74
入院時自宅訪問	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

XV. 栄養管理科

(i) 疾患別栄養指導状況及び集団指導対象者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
糖尿病	入院	6	16	17	12	11	15	8	17	16	18	16	19	171
	外来	20	27	23	15	22	25	18	34	21	19	16	15	255
腎疾患	入院	4	2	4	3	3	1	4	5	3	7	1		37
	外来	16	7	6	12	16	10	4	4	11	5	5	13	109
脂質異常症	入院	4	14	16	13	10	13	16	9	15	21	17	14	162
	外来	1	1	4	5	1	0	5	3	4	1	4	3	32
高血圧/ 心疾患	入院	15	6	7	13	7	11	16	21	24	20	25	18	183
	外来	1	0	0	0	1	1	1	1	0	0	2	2	9
肝疾患	入院	1	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	6
	外来	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
胃・十二指腸 潰瘍	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
炎症性腸疾患	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
膵炎	入院	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
貧血	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
痛風・ 高尿酸血症	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化管術後	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
嚥下障害・ 低栄養	入院	2	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	1	7
	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	入院	0	0	1	0	1	4	0	1	1	2	0	1	11
	外来	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	3
合計		70	74	81	75	74	83	73	96	96	94	87	87	990
集団指導	入院	0	7	4	2	0	6	4	2	4	5	6	3	43
	外来	0	0	0	13	0	7	0	12	0	9	0	11	52

(ii) 延食数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
常食	2,585	1,881	1,832	2,138	2,093	2,127	2,432	2,671	2,567	2,058	2,187	2,168	26,739
流動	5	98	50	42	103	34	26	11	5	8	26	11	419
軟菜	4,279	4,908	4,615	5,052	5,211	5,364	5,445	4,926	5,948	6,163	5,557	5,852	63,320
特別食	5,722	5,846	7,326	8,203	7,635	6,183	6,146	6,926	8,037	8,491	7,660	8,372	86,547
調整栄養	739	1,030	1,151	656	533	750	633	717	582	674	523	439	8,427
合計	13,330	13,763	14,974	16,091	15,575	14,458	14,682	15,251	17,139	17,394	15,953	16,842	185,452

XVI. 薬剤科

(i) 処方箋枚数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来	院内	83	119	104	157	120	108	112	111	97	144	81	66	1,302
	院外	1,854	1,781	1,766	1,824	2,002	1,779	2,023	1,892	1,917	1,884	1,782	1,883	22,387
	院外発行率(%)	95.7	93.7	94.4	92.1	94.3	94.3	94.8	94.5	95.2	92.9	95.7	96.6	94.5
入院	西4病棟	0	369	579	644	682	573	649	794	840	762	804	790	7,486
	東4病棟	1,108	969	900	922	908	920	858	960	1,107	1,020	988	1,047	11,707
	東3病棟	771	978	907	893	723	722	753	728	1,018	1,034	808	771	10,106
	西3病棟	1,018	935	834	827	837	931	965	837	982	942	771	766	10,645
	入院合計	2,897	3,251	3,220	3,286	3,150	3,146	3,225	3,319	3,947	3,758	3,371	3,374	39,944
稼働日数	外来	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243
	入院	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
1日平均	外来	96.9	95.0	85.0	99.1	96.5	94.4	101.7	100.2	100.7	106.7	98.1	97.5	97.5
	入院	96.6	104.9	107.3	106.0	101.6	104.9	104.0	110.6	127.3	121.2	116.2	108.8	109.1

(ii) 注射指示箋枚数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外 来		125	184	186	220	201	191	206	157	165	193	190	192	2,210
透 析		409	460	404	363	415	352	362	397	366	410	363	376	4,677
入院	西4病棟	0	565	900	820	1,101	878	650	1,198	979	1,420	1,117	1,190	10,818
	東4病棟	1,464	1,180	1,144	1,182	1,108	955	866	819	1,094	785	918	1,028	12,543
	東3病棟	352	358	405	394	477	205	214	319	360	260	293	255	3,892
	西3病棟	386	423	662	566	422	340	355	231	330	283	373	340	4,711
	小計	2,202	2,526	3,111	2,962	3,108	2,378	2,085	2,567	2,763	2,748	2,701	2,813	31,964
合 計		2,736	3,170	3,701	3,545	3,724	2,921	2,653	3,121	3,294	3,351	3,254	3,381	38,851

(iii) 無菌製剤処理料算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
処理料1(外来)(45点)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
処理料1(入院)(45点)	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	5
処理料2(入院)(40点)	0	0	0	0	4	30	15	19	0	0	25	41	134
合計	0	0	0	3	4	30	15	19	0	0	25	43	139

(iv) 持参薬鑑別実施件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	129	146	167	151	161	146	157	179	166	169	146	160	1,877

(v) 指導料算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ハイリスク薬剤管理指導(380点)	27	25	80	62	61	49	47	43	48	53	38	47	580
薬剤管理指導件数(325点)	20	43	83	56	73	47	79	78	61	56	68	26	690
薬剤総合評価調整加算(100点)	0	1	0	1	1	2	1	0	3	0	0	0	9
薬剤調整加算(150点)	0	1	0	1	1	1	1	0	3	0	0	0	8
麻薬管理指導加算(50点)	0	5	2	7	6	2	4	3	3	0	0	1	33
退院時薬剤情報管理指導料(90点)	7	10	23	18	24	20	32	26	27	32	28	33	280
合計	54	85	188	145	166	121	164	150	145	141	134	107	1,600

(vi) 算定件数

	4月※	5月※	6月※	7月※	8月※	9月※	10月※	11月※	12月※	1月※	2月※	3月※	合計
後発医薬品使用体制加算 ※(37点)※(42点)	91	102	122	124	123	117	118	122	128	125	123	127	1,422
病棟業務実施加算(120点)	243	311	390	405	420	358	373	411	447	492	430	446	4,726

XVII. 中央放射線科

(i) 検査別利用内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般撮影	1,303	1,459	1,525	1,426	1,556	1,698	1,557	1,545	1,544	1,490	1,383	1,503	17,989
C T	234	307	360	291	328	301	304	293	306	300	260	273	3,557
M R I	113	126	151	132	139	126	139	152	117	163	149	135	1,642
透視造影	6	11	16	12	14	10	7	9	6	11	9	8	119
乳房撮影	13	16	30	36	25	47	4	28	20	35	31	18	303
骨密度測定	29	50	43	37	33	35	43	63	62	45	52	46	538

XVIII. 臨床検査科

(i) 検体検査領域

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計	
検体検査領域	検査検体数	外 来	3,227	3,806	4,125	4,010	4,241	3,679	3,623	3,915	3,332	3,439	3,557	3,723	44,677	63,714
		入 院	1,287	1,428	1,529	1,750	2,042	1,409	1,447	1,513	1,727	1,640	1,631	1,634	19,037	
	輸 血 製剤払い出し 単 位 数	RBC-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	455
		RBC-2	30	22	32	26	16	38	18	30	18	34	72	30	366	
		FFP-2	0	0	0	2	0	1	0	0	1	4	0	0	8	
		PC-10	10	0	30	20	0	10	0	0	10	0	0	0	80	
	細菌培養検査	自己血	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,610
		一般細菌	104	123	112	117	119	124	134	135	101	144	103	117	1,433	
		抗 酸 菌	13	14	20	16	15	13	10	11	20	20	12	13	177	
		病理組織	10	11	15	17	14	14	11	10	8	11	7	10	138	138
	細胞診	10	8	6	8	7	7	4	2	11	5	9	7	84	84	

(ii) 生理検査領域

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
生体検査領域	心電図	431	588	561	534	607	482	497	502	454	424	472	488	6,040	
	ホルター心電図	12	8	11	10	8	9	9	10	6	21	15	5	124	
	負荷心電図	マスター	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	5
		エルゴメータ	1	2	4	2	2	0	0	0	1	1	1	1	15
	肺機能	SVC+FV	6	10	14	14	16	16	10	21	16	4	15	14	156
		FV	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	ABI	57	60	54	41	32	27	30	49	40	36	39	33	498	
	眼底	8	15	15	31	38	16	11	21	8	14	29	16	222	
	脳波	2	5	6	3	3	6	3	4	4	4	1	4	45	
	心エコー	60	86	64	75	56	57	66	72	61	71	83	75	826	
	頸部エコー	3	2	6	5	4	5	2	7	5	7	5	2	53	
	下肢エコー	35	40	59	43	28	31	51	56	82	60	85	69	639	
	腹部エコー	13	14	19	7	9	9	17	18	19	12	21	19	177	
	甲状腺エコー	1	0	0	4	0	4	1	3	1	0	0	2	16	
	乳腺エコー	9	6	5	4	5	6	9	6	3	5	3	6	67	
	神経伝導速度	0	0	1	1	0	0	2	1	0	0	4	0	9	
SPP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2		

2023年 (令和5年)

期日	行 事	出 来 事
4月	<p>4月1日(土) 箕田誠司 病院長就任 4月3日(月) 入職式・仕事はじめ式、辞令交付式、永年勤続表彰式▼</p>     <p>★4月入職者 【診療部】 箕田誠司 由布哲夫 佐々木一駿 小笠原英幸 【看護部】 谷口安加里 添田真弓 藤井晶子 河野由佳 井元香奈 佐藤麻由 藤原胡花 坂本恵美 塘田幸深 森坂麻未 舩本沙織 中村恵 前田彩香 甲斐実華 溝口美和 徳永千麻 林貴美 北尾あすか 【コメディカル部】 松本茉唯 伊藤光生 福田貴美佳 【事務部】 森山啓一 藤井聡美 吉田有希</p>	<p>[4月4日] フィンランド NATO加盟 フィンランドがNATO(北大西洋条約機構)に正式加盟した。</p> <p>[4月7日] 師団長ら搭乗する自衛隊ヘリが墜落 沖縄県の宮古島の周辺海域で陸上自衛隊のヘリが消失。ヘリに搭乗していた10人が死亡。ヘリには師団長(日本に9つある師団のトップ)や幕僚長ら幹部8人が搭乗していた。</p>

5月30日(火) 【訓練】2023年度 洪水時避難訓練



止水板設置講習実施▲

★5月の入職者
【診療部】 小森宏之 吉田文

[5月5日]
新型コロナの位置づけが「5類」移行、WHOは緊急事態宣言を終了

5月5日付で3年3ヶ月続いた新型コロナの緊急事態宣言が解除された。新型コロナの感染者は2019年12月に中国で確認され、2020年1月～3月にかけて世界的に流行。2020年1月にWHOが緊急事態宣言を発令した。これまでの累計感染者数は世界6億人、累計死者数は世界600万人を超えた。

[5月19日]
G7広島サミット開幕

伊勢志摩サミット(2016)以来7年ぶりとなる日本国内でのG7サミット開催。広島でのG7サミット開催は初めて。主な議題にウクライナ情勢、核軍縮など。

5月

6月27日(火) 【訓練】2023年度 第1回 消防訓練(昼間想定)▼



★7月の入職者
【事務部】 林田豊

[7月16日]
TPP イギリス加盟
環太平洋パートナーシップ協定(TPP)へのイギリスの加入が正式決定した。

6月

7月

8月

9月	<p>9月1日(金) 紹介受診重点医療機関 指定</p> <p>9月30日(土) 「新型コロナウイルス感染症患者受け入れ重点医療機関」指定解除</p>	<p>[9月14日] 【プロ野球】阪神タイガースが18年ぶりリーグ優勝 阪神タイガースが2005年以来18年ぶり6度目となるセ・リーグ優勝を決めた。</p>
10月	<p>10月1日(日) 「職員紹介制度」導入</p> <p>★10月の入職者 【看護部】 下田 砂織 【コメディカル部】 森田 柊馬</p> <p>10月21日(土) 【訓練】 2023年度 宇城市総合防災訓練 参加 (於:熊本県博物館ネットワークセンター)</p>	<p>[10月1日] インボイス制度スタート 消費税の納税状況の把握を目的とした「インボイス制度」がスタート。</p> <p>[10月7日] 【中東】イスラエルと武装組織ハマスが軍事衝突 パレスチナ自治政府のガザ地区を拠点にする武装組織「ハマス」がイスラエル側にミサイル攻撃。これにイスラエル軍が反撃。戦闘が拡大した。</p> <p>[10月11日] 【将棋】藤井聡太七冠が史上初の「八冠」達成 日本将棋界の8大タイトルの1つ「王座」を獲得。羽生善治会長が持つ「七冠」記録を更新し、将棋界で史上初となる8大タイトル独占を達成した。</p>
11月	<p>11月14日(火)/11月21日(火) 【研修】 BLS研修▼</p>  <p>★11月の入職者 【看護部】 高山 綾乃</p> <p>11月21日(火) 安否確認訓練(2023年度災害訓練) 実施</p>	<p>[11月1日] 【プロ野球】阪神タイガースが38年ぶり日本一 クライマックスシリーズ最終戦(第7戦)までもつれこみ、阪神タイガースが球団史上2度目となる日本一を決めた。</p>
12月	<p>12月28日(木) 仕事納め式▼</p>  <p>★12月の入職者 【看護部】 上村 麻奈</p>	<p>[12月10日] 【MLB】大谷翔平がドジャース移籍を発表、契約金は米スポーツ史上最高額の1,000億円</p>

1月4日(木) 仕事はじめ式▼



★1月の入職者

【看護部】 永田貴大 東聡美

1月21日(日)～1月26日(金)

【災害】能登半島地震 DMAT災害派遣(穴水町)

1月23日(火) 消防訓練(夜間想定)▼

1月



2月13日(火) 【研修】2023年度倫理研修(動画配信)

★2月の入職者

【看護部】 小田幸代子 松本喜美江
 【リハビリテーション部】 津山友希
 【事務部】 喜津木桜子

2月

2月19日(月) 【研修】 2023年度個人情報保護研修(動画配信)

3月

[1月1日]

【石川県】能登半島でM7.6地震が発生

1日16時10分、石川県能登半島で最大震度7の地震が発生、気象庁はこの地震並びに一連の地震活動を「令和6年能登半島地震」と命名した。

改正電子帳簿保存法(電子取引のデータ保存義務化)が施行。

[1月2日]

日航機、海保機と衝突炎上

羽田空港への着陸時に、滑走路上にいた海上保安庁の航空機と衝突・炎上した。JAL旅客機側に死者はおらず。海上保安庁の航空機に搭乗していた隊員6人のうち5人が亡くなった。

[1月20日]

JAXA探査機が月面着陸

宇宙航空研究開発機構(JAXA)の小型無人探査機SLIM(スリム)が月面着陸した。

[2月22日]

日経平均株価史上最高

日経平均株価が39,000円を超えバブル景気以来最高値となった。

[3月23日]

SL人吉がラストラン

JR九州の蒸気機関車牽引の観光列車「SL人吉」がラストラン

各種発表一覧

I. 症例検討会発表一覧

回数	開催日	発表者	タイトル
1	2023/5/9	平原 智雄	敗血症の血圧管理
2	2023/6/13	大多和 聡	二次性骨折予防継続管理料制度 緊急整復固定加算 緊急挿入加算
3	2023/7/11	清原 悠太	サルレモネラ菌による化膿性膝関節炎の1例
4	2023/8/8	小野 敬道	当院へ導入されたMV monitorの紹介と症例提示
5	2023/9/12	石田 秀太	急速進行性糸球体腎炎について
6	2023/10/10	蛭原 賢司	SGLT2阻害剤により正常血糖ケトアシドーシスを来した一例
7	2023/11/14	松田 貞士	偽胆石症の1例
8	2023/12/12	高田 柊	骨吸収抑制薬長期使用中に非定型大腿骨骨折を生じた2症例
9	2024/1/9	佐々木 一駿	第3回4Rメディカルラリー 参加報告
10	2024/2/13	小森 宏之	高齢者胆道感染症への対応
11	2024/3/12	由布 哲夫	重症誤嚥性肺炎による敗血症性ショックに起因するDICから回復した1例

II. 講演・学会発表一覧

学会名	開催地	発表演題	発表者	発表日
第123回日本外科学会定期学術集会	東京	進行大腸癌における術前ルーチンEOB-MRIは必要か?	小森 宏之	2023.4.29
第17回熊本OLS研究会	熊本市	OLS/FLSのStep Upを目指そう! ～クリニカルスタンダード ステージ1編～ 宇城総合病院における取り組み	川崎 裕美	2023.6.24
第33回地域連携会研修会	Web	二次性骨折予防継続管理料算定における 当院での活動	川崎 裕美	2023.9.11-29
第33回地域連携会研修会	Web	骨粗鬆症と栄養 ～丈夫な骨は毎日の食事から～	森 美由希	2023.9.11-29
日本医師事務作業補助者協会 第12回全国学術集会	大阪	「日本脆弱性骨折ネットワーク」のレジストリー登録 の取り組み	今福 夕貴	2023.10.28
		派遣から直接雇用に至るまでの実務報告と今後の 取り組み	吉田 有希	
第14回熊本県合同輸血療法委員会	熊本市	「院内輸血療法委員会活動報告と輸血検査の現状」	飯田 美紀	2023.11.18
九州理学療法士学術大会2023in熊本	熊本市	診療参加型臨床実習による2対1モデルでの臨床実習 教育の経験で得られた臨床教育者の役割と今後の課題	狩野 栄樹	2023.11.25
		視神経脊髄炎により重度対麻痺を呈した一症例	竹田 光希	
第61回日本糖尿病学会九州地方会	熊本市	糖尿病患者会活動の再開 ～栄養科手作り弁当を用いた個別指導の試み～	福島 央	2023.12.1
第27回日本病態栄養学会学術集会	京都府	言語聴覚士との協力で頻回な 食事アプローチを重ねた結果、 経鼻胃管栄養から経口摂取(常食)へ移行した1例	吉武 茉莉花	2024.1.27
第27回日本病態栄養学会学術集会	京都府	経口摂取再開は困難と判断され、 胃瘻を造設した患者がその後、 リハビリと栄養管理により完全に経口食へ移行した症例	田邊 まどか	2024.1.27
整形外科トータルケアセミナー ～神経障害性疼痛と二次性骨折予防～	八代市	二次性骨折予防継続管理料算定における 骨粗鬆症リエゾンチームの活動	川崎 裕美	2024.2.9
宇城薬剤師会症例検討会	宇城市	心不全チームの取り組みと症例報告	東鶴 桃佳	2024.3.21
第19回熊本OLS研究会	熊本市	OLS/FLSのStep Upを目指そう! ～クリニカルスタンダード ステージ3編～ 宇城総合病院における取り組み	川崎 裕美	2024.3.30

研修受け入れ

	実習名	実習科目	依頼元	実習期間	人数	受入れ部署
1	臨床実習	評価実習	九州中央リハビリテーション学院	2023.4.10-28	1名	理学療法科
2	臨床実習	長期実習	熊本駅前看護リハビリテーション学院	2023.4.10-6.10	1名	作業療法科
3	臨床実習	長期実習	九州看護福祉大学	2023.5.8-7.1	1名	理学療法科
4	臨床実習	長期実習	熊本保健科学大学	2023.5.15-6.30	1名	理学療法科
5	臨床実習	長期実習	九州中央リハビリテーション学院	2023.6.6-7.15	1名	作業療法科
6	臨床実習	長期実習	熊本駅前看護リハビリテーション学院	2023.7.10-9.2	1名	理学療法科
7	臨床実習	長期実習	熊本総合医療リハビリテーション学院	2023.7.24-9.16	2名	理学療法科
8	インターシップ		熊本県立松橋高等学校	2023.7.25-27	1名	医事課・医療秘書課
9	医療事務実習		学校法人大原学園大原保育医療福祉専門学校熊本校	2023.7.31-8.23	1名	医事課・医療秘書課
10	臨床実習	長期実習	九州中央リハビリテーション学院	2023.7.31-9.22	1名	理学療法科
11	薬学実務実習	病院実務実習	崇城大学	2023.8.21-11.5	1名	薬剤科
12	薬学実務実習	病院実務実習	九州保健福祉大学	2023.8.21-11.5	1名	薬剤科
13	臨床実習	評価実習	熊本保健科学大学	2023.9.4-9.30	1名	作業療法科
14	職場実習	職業訓練実施に伴う職場実習	熊本ソフトウェア株式会社	2023.9.20-10.17	1名	医事課
15	臨床実習	評価実習	熊本保健科学大学	2023.10.2-20	1名	理学療法科
16	臨床実習	評価実習	九州看護福祉大学	2023.11.20-12.9	1名	理学療法科
17	2023年度早期臨床体験実習Ⅲ	地域の病院での体験実習	熊本大学	2023.12.4-8	1名	診療部
18	臨床実習	評価実習	熊本駅前看護リハビリテーション学院	2024.1.29-2.24	1名	理学療法科
19	臨床実習	評価実習	熊本保健科学大学	2024.2.5-9	1名	言語聴覚療法科
20	臨床実習	評価実習	熊本駅前看護リハビリテーション学院	2024.2.5-24	1名	作業療法科
21	医療事務実習		学校法人大原学園大原保育医療福祉専門学校熊本校	2024.2.13-27	1名	医事課
22	ソーシャルワーク実習I	ソーシャルワーク実習I	熊本学園大学	2024.2.15-22	1名	連携支援課
23	臨床実習	見学実習	熊本総合医療リハビリテーション学院	2024.2.19-22	1名	作業療法科
24	臨床栄養学実習	臨床栄養学	尚綱大学生活科学部栄養科学科	2024.2.26-3.1	3名	栄養管理科
25	臨地実習Ⅱ	臨床栄養	中村学園大学栄養科学部栄養科学科	2024.2.26-3.15	1名	栄養管理科

I. 広報誌

広報誌発行実績

広報物	発行部数(ノ回)	発行回数	発行部署
年報	600	年1回	総務課
SoGo News	30	月1回	総務課
えいよう号	150~180	月1回	栄養管理科
薬剤情報「UDINS」	21	月1回	薬剤科
こころとからだの健康コラム	29	月2回(1日、15日)	人事相談室
宇城総合だより	600	不定期(2023年度は3回)	総務課
感染便り	30	不定期(2023年度は2回 5月・7月)	感染対策室

SOGO NEWS
2023年8月 発行 | 総務課

【本巻です!】
夏の暑さがピークを過ぎ、秋の気配が感じられるようになりました。この時期は、体調管理が大切です。夏バテを防ぐために、水分をこまめに摂り、栄養バランスのとれた食事を摂りましょう。また、汗をかいたら、こまめに着替えをしましょう。暑い時期は、体調管理が大切です。夏バテを防ぐために、水分をこまめに摂り、栄養バランスのとれた食事を摂りましょう。また、汗をかいたら、こまめに着替えをしましょう。

【お知らせ】
当院の施設は、安全で快適な環境を整えています。最新の医療機器を導入し、患者様の安心と安全を最優先に考えています。また、スタッフの研修も積極的に実施し、患者様の満足度を高めることに努めています。

感染便り
職員へのCOVID-19罹患時の業務継続の指針について

COVID-19罹患時の業務継続について、各部署に合わせた指針を策定し、業務継続を確保しています。また、感染発生時の対応についても、各部署に合わせた指針を策定し、業務継続を確保しています。

【COVID-19罹患職員復帰の目安】
① 発症後5日目以降、発熱が再発しないこと。
② 発症後5日目以降、咳が再発しないこと。
③ 発症後5日目以降、嗅覚・味覚が回復すること。
④ 発症後5日目以降、呼吸器症状が軽くなること。

えいよう号
2023年8月 11号
発行 | 栄養管理科

「嬉しい」健康効果!
「ものを噛む」ということは、私たちが思っている以上にさまざまな健康効果があることをご存知ですか?

＜よく噛むことの効果とは＞
1. 消化吸収機能がアップ
食べ物が小さくなり、消化酵素を必要とせずしっかりと分泌されることで、栄養が体内に取り込まれやすくなる。
2. 知的発達や高齢者の認知症予防
脳の発達をアップするため、子どもの知的発達や高齢者の認知症予防も期待されている。
3. 腸と全身の筋力・弛緩によるアンチエイジング
口周辺の筋肉を動かすことで、さらには全身の筋力バランスを維持するためのトレーニングに、口角の下がりやほぐれ癖の予防にも、効果が期待されています。

【よく噛むことの効果とは】
1. 消化吸収機能がアップ
食べ物が小さくなり、消化酵素を必要とせずしっかりと分泌されることで、栄養が体内に取り込まれやすくなる。
2. 知的発達や高齢者の認知症予防
脳の発達をアップするため、子どもの知的発達や高齢者の認知症予防も期待されている。
3. 腸と全身の筋力・弛緩によるアンチエイジング
口周辺の筋肉を動かすことで、さらには全身の筋力バランスを維持するためのトレーニングに、口角の下がりやほぐれ癖の予防にも、効果が期待されています。

宇城総合だより
2023年8月 発行 | 総務課

【お知らせ】
当院の施設は、安全で快適な環境を整えています。最新の医療機器を導入し、患者様の安心と安全を最優先に考えています。また、スタッフの研修も積極的に実施し、患者様の満足度を高めることに努めています。

宇城総合病院
Social medical corporation REIMEIKAI
UKI General Hospital
Annual Report 2022

【年報】令和4年度(2022年度)
04-119-1111-0404-330121

UDINS
2023年8月 発行 | 薬剤科

【お知らせ】
当院の施設は、安全で快適な環境を整えています。最新の医療機器を導入し、患者様の安心と安全を最優先に考えています。また、スタッフの研修も積極的に実施し、患者様の満足度を高めることに努めています。

宇城総合病院UDINS
2023年8月 発行 | 薬剤科

【お知らせ】
当院の施設は、安全で快適な環境を整えています。最新の医療機器を導入し、患者様の安心と安全を最優先に考えています。また、スタッフの研修も積極的に実施し、患者様の満足度を高めることに努めています。

II. ホームページ

(i) 宇城総合病院



<http://www.reimeikai.jp/>

2023 年度アクセス回数 / 90,209 回

(ii) 宇城総合病院看護部



<http://www.reimeikai.jp/department/nurse/>

2023 年度アクセス回数 / 2,891 回

MEMO

宇城総合病院 令和5年度(2023年度)年報

令和6年10月発行

発行 社会医療法人 黎明会
宇城総合病院

〒869-0532 宇城市松橋町久具 691

TEL 0964-32-3111

制作・印刷 株式会社アートプロセス



社会医療法人 黎明会

宇城総合病院

〒 869-0532 熊本県宇城市松橋町久具 691

TEL . 0964-32-3111 (代表)

FAX . 0964-32-3112